

南国暮らしの会

2007年 春季号



平成19年4月21日



NPO法人 南国暮らしの会

登録第4810100号
REGISTRATION NUMBER

南国暮らしの会

会報2007年春季号

目次

(敬称略)

ページ

平成19年度南国暮らしの会総会及び懇親会のご案内			1
総会表決権について			2
平成19年度事業計画書案			3
平成19年度特定非営利活動に係わる会計収支予算書案			4
北海道支部特集			
北海道支部より	No. 625	工藤 俊一	5
北の大地でステイはいかがですか!	No. 861	大平 盛雄	7
北国のパーゴラ作り	No. 358	松村 久一	10
南の会北海道支部ユウレイ部員	No. 982	山本 英一	11
ペナン島の西側って?	No. 349	賀陽 恒麿 不二子	13
ゴールデンシャワーの咲く国へ	No. 613	冨樫 則子	14
初めてのメルボルン	No. 582	大塚 政明 恵美子	15
ダイビングへのお誘い	No.1042	小屋 秀俊	17
シニアにもやさしいバリ	No. 892	加賀谷 功	20
日高路の風景	No. 258	松山 和弘	21
	No. 777	小松 浩	
世界で一番住んで見たい街 パースでの2週間	No. 742	池田 邦彦 恵子	23
喜びも悲しみも・・・	No. 558	伊沢 豊	31
チェンマイ視察ツアー顛末記	No. 753	大西 清	32
コタキナバル滞在情報	No.1134	亀山 京子	35
スリランカ マジックの旅	No.1084	内倉 恒治	44
祝 “ハワイ支部誕生”			
夢のハワイ支部誕生	No. 699	大黒 均	45
アローハ	No. 959	皆本 茂夫	46
「平澤 信 世界を旅する」 モロッコ編(その三)	No. 40	平澤 信	47
もっと知りたいシリーズ タイの宗教	No. 465	橋本 慧	52
友好団体紹介コーナー			54
支部便り			54
部会伝言板			57
編集後記			58

平成19年度南国暮らしの会総会および懇親会のご案内

理事長 宮崎 哲郎

目に青葉の季節、良き時候を迎え皆様にはご健勝のことと存じます。

さて恒例の年次総会を下記の要領にて開催いたしますのでご出席賜りたくご案内申し上げます。同封の葉書にて出欠のご連絡をお願いします。ご出席できない方は同封葉書「平成19年度総会表決権行使委任状」を引き続きご記入の上ご返送願います。

今年度の総会出席資格者は、次頁「総会表決権について」記載の如く本年5月2日までに当会年会費を納入された継続正会員の方と致しますのでご承知おき下さい。

なお総会終了後に総会ご出席者、各支部長、理事の方々と昼食を取りながらの懇親会を開催しますので是非ご参加を頂きます様お願い申し上げます。 敬具

記

日時：(1) 総会 : 平成19年5月19日(土) 午前10時～11時30分

(2) 懇親会 : 同日午後12時～1時30分

(3) 支部長会議 : 同日午後2時～4時30分(別途ご案内)

場所：東京都南部労政会館(JR大崎駅南口徒歩3分、次頁案内図参照)

緊急連絡先： 宮崎 090 - 2907 - 8340

1. 総会議題

* 第1号議案 : 平成18年度事業報告および決算報告・監査報告

* 第2号議案 : 理事退任に伴う理事会の選任理事の信任について

* 第3号議案 : 平成19年度事業計画および予算案について

* その他 : 平成19年度理事業務分担および理事紹介

2. 総会の議事進行について

総会開催に当たり、会員の皆様には各議案内容(第1号議案を除く)を事前にご検討頂き、ご出席できない方は「平成19年度総会表決権行使委任状」を予めご提出頂くことにしております(提出期限は5月10日です)。

よって、総会は掲載事項の詳細説明は省き、質疑応答から開始し効率よく議事進行を計りたいと思いますので皆様のご協力をお願い申し上げます。従って当日は本会報及び同封した総会関連資料を必ずご持参下さい。

3. 懇親会

場所：「ロージ」(ゲートシティ大崎ウェストタワー地下1階)

会費：1,380円(ソフトドリンク代を含む)

アルコール類は各自別途精算と致します。

総会表決権について

NPO法人南国暮らしの会 理事長

NPO法人南国暮らしの会の決算年度は4月1日から翌年の3月31日です。来たる5月19日に総会を開催しますが、従来総会での表決権者の位置付けが明文化されないまま進められてきました。

定款第21条には「総会は、正会員をもって構成する」とありますが、いつの時点の正会員かが規定されていません。そのため、従来は次年度会費納入の有無にかかわらず3月のある時点での会員に会報春季号と共に総会通知を送付しており、退会・休会された方は当然委任状も提出されず欠席になっていました。また、定款第26条には「総会は、正会員総数の3分の1以上の出席がなければ開会することができない」とあり、分母の数によっては総会が開催できない事も想定されます。

総会の本来の姿として、今後は3月末日までに翌年度の年会費を納入した正会員を総会の表決権者といたします（本会報57頁 部会伝言板総務部会の項を参照）。しかし、まだこの事を会員各位にお知らせしておりませんので、今総会は暫定的に5月2日までに年会費を納入された継続正会員を総会表決権者と致します。よって未だ19年度会費を納入していない継続会員を希望される正会員は5月2日（水）までに会費を下記口座に納入して下さい。当日までに納入されないで総会への参加資格を失うこととなりますのでご注意ください。

なお細則第9条（5）記載の会費納入期限は、総会への参加資格とは別に、会費納入の最終期限は5月15日という意味です。また4月からの新正会員については、従来通り総会への参加資格が無い事といたします。

郵便振替による会費振込先（通信欄に会員番号を明記して下さい）

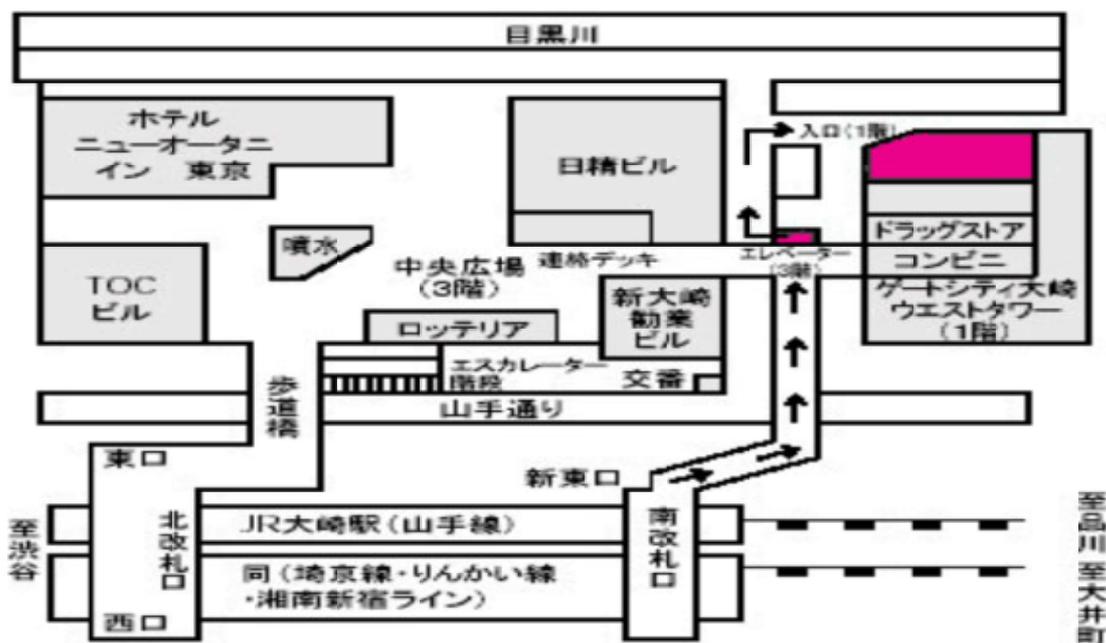
郵便口座記号番号： 0170-7-24682

金 額： 5,000円

加入者名： 南の会

以上

総会会場（南部労政会館）のご案内



南部労政会館：品川区大崎1-11-1 ゲートシティ大崎ウエストタワー2F

（大崎駅南改札口側の連絡デッキ突き当たりのエレベーターで地上に降り10m進んだ右側の1F入口より入る）

平成19年度事業計画書案

(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

1. 事業の方針

- * 会報の発行・発送事業を継続し、内容の更なる充実と迅速なる発送を目指す。
- * 会報の電子化(pdf化)を推進する。
- * 当会への入会問い合わせ者への迅速なる対応を計ると共に、会員のレベル低下防止を計る。
- * 発行した「南国くらし便利帳・医療編」の縮小化を図る。
- * ホームページ(HP)の再構築と充実化を推進する。地方の人材の活用を計る。
- * メーリングリスト(ML)の健全な普及啓蒙を目指す。
- * 支部の組織化、計画的活動の更なる充実、本部との連携の強化を目指す。
- * サロン会を軸に、情報交換会、講演会、支部会、会企画の国内外旅行会、介護施設見学会などを開催し、会員相互の研鑽と親睦を深める。
- * 料理教室・英会話教室・パソコン教室・ウクレレ教室・手品教室等の教室活動を発展させ、会員の生活のレベルアップと親睦を計る。パソコン教室によりパソコンの一層の普及を目指す。
- * 海外支部の充実・新設を計る。
- * NPO法人活動の両輪のもう一つ「不特定かつ多数の人々の利益の増進に寄与する活動」を推進する。即ち、一般の人々を対象とした有料セミナーを支部ベースを含め、計画実施する。
- * わが国の退職者等を歓迎する国々の情報を引き続き収集・調査する。
- * これから主流となる団塊世代会員の意識調査と会としての対応策などの検討を継続する。
- * 会の運営方法として委員会方式をより多く取り入れ、理事数の妥当性を検討する。
- * 家族会員の位置づけと有料化を検討する。

2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施予定	実施予定場所・内容	備考
会報作成	会報発行(新年・春・夏・秋)	年4回	写真数とページ数のアップ。会報のpdf化試験	会報委員会 編集補助の強化
会報発送	会報・同封資料の発送	年4回	正確な梱包発送作業と海外発送の迅速化	会報委員会 発送作業の合理化
資料等製作	問合せ・入会者への資料作成送付	随時	約500件/年 事務処理費用の合理化	会員担当
報告書等製作	会報同封資料の作成	年4回	会員名簿等の作成	会員担当
	海外くらし便利帳・医療編の改訂準備	一年掛ける	内容の簡略化	医療介護調査委員会
広報活動	对外情報の一括管理 新HPのメンテナンス MLの管理	常時	- 新HPの合理的運用 MLの適正な運用	広報委員会 HP委員会 ML委員会
支部活動支援	国内7支部・海外10支部に補助金等支給	随時	各支部との交流促進 海外支部の支援強化 GC支部発足予定	支部推進委員会 GC=ゴールド・コースト
	支部単位でサロン会・趣味の会等実施	随時	会員の活力アップ 適時人事交流 パソコン教室の拡大	支部推進委員会 支部役員
社会貢献	一般を対象にセミナー開催		啓蒙活動	調査担当 国内支部役員
	LS地への寄付活動	随時	LS地への返礼	調査担当
通常総会	総会開催	1回/年	東京	総務部
理事会・役員会	理事会の開催 役員会の開催	8回/年 1回/年	東京	他に各種委員会

(2) 収益事業：なし

平成19年度特定非営利活動に係わる会計収支予算書案

- 平成19年4月1日から平成20年3月31日まで -

2007.4.7

特定非営利活動法人 南国暮らしの会

(単位:円)

科 目	前年度 予算額 (A)	本年度 予算額 (B)	差 異 (B - A)	摘 要
. 収入の部				
1) 入会金収入	1,030,000	775,000	255,000	入会金: 5,000 円, 想定新規入会者数: 155 名(前年実績並みと想定)
2) 会費収入	3,550,000	3,750,000	200,000	会費: 5,000 円, 想定継続会員数: 595 名(継続率: 88%)
3) 資料売収入	350,000	205,000	145,000	想定有料資料請求者数: 205 名
4) 寄付金収入	100,000	80,000	20,000	
5) 基本金等利息収入	100	100	0	
6) 雑 収 入	15,000	10,000	5,000	有料名刺作成料
7) 事業拡張準備金より繰入れ	*700,000	400,000	300,000	*裁判発生のため急遽期中繰入れ
1. 当期収入合計	5,745,100	5,220,100	525,000	
2. 前期繰越	323,639	未定		前年度決算での繰越額
3. 収入合計	6,068,739	未定		1. + 2.
. 支出の部				
1) 事 業 費	4,051,000	3,429,000	622,000	
会報等事業費	1,232,000	1,336,000	104,000	掲載写真数・ページ数のアップ
会報等送料費	512,000	448,000	64,000	発送作業合理化
資料等製作事業費	440,000	216,000	224,000	事務処理合理化
報告書等製作事業費	161,000	118,000	43,000	会員証発行なし・新規項目なし
案内書製作事業費	400,000	0	400,000	「必携」・「入会案内」増刷なし
広報活動事業費	242,000	250,000	8,000	会員を主体とした HP の運営
講師等謝礼費	75,000	75,000	0	
支部関係事業費	779,000	826,000	47,000	ゴールドコースト支部設立を想定
社会貢献事業費	210,000	160,000	50,000	セミナー開催・寄付金設定額変更
2) 管理費	1,711,000	1,692,000	19,000	
事務用消耗品費	131,000	110,000	21,000	実績スライド
諸会・交通補助費	678,000	750,000	72,000	実績スライド
内外通信費	50,000	74,000	24,000	実績スライド
雑費	132,000	81,000	51,000	実績スライド
その他契約料	20,000	77,000	57,000	インターネット・バンキング採用 書類の有料保管
裁判関連費用	*700,000	600,000	100,000	*裁判発生のため管理費内に項目新設
3) 予備費	50,000	50,000	0	
4. 当期支出合計	5,812,000	5,171,000	641,000	1) + 2) + 3)
5. 当期収支差額	66,900	49,100		1. - 4.
6. 次期繰越収支差額	未定	未定	未定	3. - 4.

注1. 会員数合計 750 名を想定しており、この増減により収入・経費も大きく増減するので、期央において予算の見通しを検討し、健全な運営に努める。

北海道支部特集

北海道支部より

北海道支部長 No.625 工藤 俊一

三月は例年ですとまだまだ道路脇や空き地には雪の山のはずが、私の居住している登別地方では今年はまったく雪の山がありません。暖かいことはいいことなのでしょうが、この反動がどこかに出なければいいと思っています。



さて今回は九州支部について二番目の北海道支部特集ということで、北海道から南国へ行った方々の報告はもちろんのこと、この機会に多少北海道のPRもしたいと思って、広い北海道のほんの一端ですが、何人かの会員さんに紹介をしていただきます。

私もこの紙面をお借りして、後の方で、登別地方の紹介を後の紙面でいたしたいと思います。

北海道支部もお陰を持ちまして2003年10月5日に現宮崎理事長をお招きして支部設立総会を開催して以来4年目になりますが、お陰様にて会員数も39名になりました。

現在は年2回ほどの会合の他に役員会、ミニサロン会、北海道MLでの活発な報告や、情報交換をしており、ほとんどの会員さん同志が顔見知りになり交流も深まってきております。昨年より役員を新たに追加しより会員の役に立つ活動しやすい支部を目指しています。

役員構成は下記の通りです。

支部長	工藤 俊一	再任
副支部長	堀江 幸博	新任
経理担当	佐藤 真理子	再任

総務担当	松村 久一	新任
庶務	支部会員全員 (取りまとめ者選任中)	
宴会(司会)	大塚 政明	新任
文書管理	三島 克幸	新任

特に、2006年度より新たな役として北海道支部設立当時のいろいろな文章や、発表の貴重な資料を保管しておくことを、主たる目的として文書管理という役を起こしました。通常は庶務と位置づけているとは思いますが、このあたりは他支部にないと思われる当支部の特徴かと思えます。文書管理の方法も、もちろん紙文書綴りの他に、北海道MLのブリーフケースの中に保管し、常にML会員がいつでも見られるようにしています。本部と同じヤフーのMLを使っていますが、非常に便利で、一度アップすれば文書の紛失もなく、好きなときにいつでも簡単に見ることができるといった便利なもので、文書の保管にはこの方法をお勧めします。

また、写真等も同じくヤフーのフォトアルバムに保存してありいつでも好きなときに見られるようにしております。また最近はこのMLを通して写真の添付やら、近況報告、お出かけ情報、等々あまり制限なしに利用できるようにしており会員交流の大きな柱になっております。幸い今のところウイルス等の被害がなく、順調に稼働しております。

ただ、残念なことにこの便利な仕組みもパソコンがないと使えないということです。

現在北海道MLを活用できるのは39名の会員中30名位なので、今後パソコンが使える会員さんが増えてくれればと常々思っています。

さてせっかくの機会ですから、私の住む登別地方の紹介をしたいと思います。

登別は、皆様ご存知のとおり支笏洞爺国立公園内にあります。

この公園はその名のとおり、支笏、洞爺の二大カルデラ湖を含む一帯を中心にし、それに、羊蹄山（1,898m）の地域を加えています。その特長は、最近活動した火山が多いということです。それらの火山の風景がなかなかの見ものです。

洞爺湖南岸の有珠山（732m）は平成12年3月に23年ぶりに噴火し、今でも噴煙をあげています。有珠山は20～30年周期で噴火を繰り返しており、山麓には明治43年の噴火で四十三（よそみ）山（211m）、昭和18～20年には溶岩塔を伴った円頂丘の昭和新山（402m）、昭和52年には山頂噴火で有珠新山が誕生しました。

また、支笏湖の南岸の樽前山（1,041m）は成層火山です。その山頂には、高さ100m、最大径450mにおよぶ円頂丘が乗っています。それは、明治42年の爆発でできたものです。羊蹄山は蝦夷富士とも呼ばれ、富士山そっくりな円錐形の山容です。また、この公園には温泉が多く、そのことも魅力の一つとってよいでしょう。豊平川の上流の定山溪、倶多楽（くったら）カルデラの麓の登別、洞爺湖畔の洞爺湖温泉などが大きなものです。

解説書等には上記のような説明がありますが、このような解説から登別は温泉というイメージが大きいと思います。其の通りなのですが、地形的には登別をはさんで西側に室蘭、洞爺湖、東側に苫小牧、支笏湖という2大工業都市の付近にある湖を中心とした風光明媚な場所といってもいいのです。また登別から洞爺湖温泉まで50分、支笏湖まで1時間20分の距離に位置して、海岸沿いに形成された細長い街です。温泉街は海岸地にある登別駅から15分で行きます。最近台湾からのお客さんや、修学旅行生で活気を呈しています。温泉商店街は15分も歩くとなくなるほんの短いメイン通りですが、沢山のホテル、豊富な湯量は、一度体験してもらおう価値は十分です。機会があったら是非逗留ください。

湖、噴火湾、風光明媚な海岸線、温泉、昭和新山、有珠山等一度は見ておきたい、温泉につかってのんびりしたい地方です。機会があった

ら是非逗留ください。



昭和新山



大湯沼（登別温泉）



トッカリシヨ（室蘭）



室蘭港

北の大地でステイはいかがですか！

北海道支部 No.861 大平 盛雄

自身も納得のセカンドライフ



北海道特集の要請を安易に受け入れその一端を担うことになったものの、満足してもらえそうな題材に乏しく困りましたが、私自身のセカンドライフにもふれながら、南

の会の皆様がぜひ北海道ステイを考えて見ようという気持ちを持っていただく様なところを紹介したいと思います。

もうリタイアメント人生7年を体験した私ですが、夏はさわやかな空気と太陽のもとで果樹と野菜づくりに汗を流し、そして決して自慢できない腕前のゴルフプレイに熱中した日々を過ごしています。

また冬の季節は財政事情の許す限り南の国に出かけ、厳寒の北海道から逃避してゴルフを楽しむ生活パターンが定着するようになり、ああ！これぞわがセカンドライフかと、自身も満足感を持って納得しているところです。

自然環境と調和のリゾート



私が夏を満喫して暮らす場としている苫小牧市は、北海道の空の玄関口千歳空港から街の中心まで車で25分の位置（空港も苫小牧市の一部）にあります。

同時にまた、太平洋に面し貨物船やフェリーの出入港が頻繁に行われている東北北海道の中で最大の港を持つ海の玄関口でもあります。

この街の西南端に位置するところに、自然環

境に恵まれたオートリゾート基地「アルテン」というところがあります。

ここはしばらくの間皆様が滞在して、北海道の素晴らしい自然を満喫していただきたいと思うお勧めのスポットの一つであります。



世界的にも珍しい溶岩ドームのある樽前山(標高1042m)のふもとに位置し、錦大沼、錦小沼という二つの天然湖沼があり、自然林に囲まれ、小川が流れ、自然観察や健康維持のための散策路、マウンテンバイクコース、カヌー、パークゴルフ、乗馬、キャンプサイト、バンガロー、コテージ、露天風呂のある天然温泉など、236ヘクタールの広大な公園面積の中にたくさんの人々を受け入れ可能な施設を備え、自然環境と調和した野外活動のリゾート基地として好評を博していますので、南の会の皆様にはこの地にぜひお運びいただき、さわやかな空気と緑いっぱいの広い大地の北海道を心行くまで満喫してもらいたいと思っています。

ここに来られる時は決して駆け足の計画ではなく、コテージやキャンプサイトを利用して、ゆっくり、のんびり、の計画でこの地域を堪能してもらおうのいいと思います。

コテージなどの利用料金も紹介したいところですが多岐にわたりますので、詳しい内容を必要とする方は、「アルテン」のホームページをご参照いただきたいと思いますが、ここに滞在している方は露天風呂付の天然温泉を200円で利用できますし、1,000円で一日中パークゴルフが出来ます。(写真はホームページから転載し紹介しています)

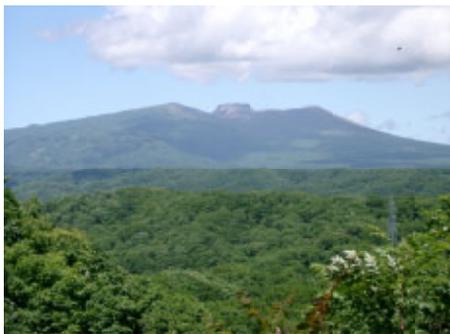
無心に汗を流す農耕民族

じつは、この様な素晴らしいリゾート基地に

隣接したところに私がセカンドライフを楽しむ場所があり、自称「農耕民族」として無心に汗を流しながらの土いじりに多くの日々を過ごしているところです。

当初はさまざまな野菜作りに挑戦して見ましたが、最近では体力の限界を感じ作業能力が低下してきたため、野菜の方は自家消費を視野に置いた計画栽培？(笑)に規模を縮小し、比較的手間のかからない果樹栽培と山菜を増やす事に比重を移しているところです。

菜っ葉類、ミニトマトなどシーズン中は毎日消費する量は収穫出来る



ようになり、かなりの初期費用投入にもかかわらず、収穫結果とのアンバランスに言い訳をした頃の悪夢も消え去り、新鮮な野菜を引き下げて誇らしげに帰宅出来るようになったこの頃の気分はまた最高です。

また草取りの必要のない山菜を増やす事に意を注ぎ、付近の山から少しずついただき増殖した成果が稔り、ウド、コゴミ、スドケ、フキ、

タラノメ、ワラビなどいまや山菜の宝庫と自慢したい位、収量もかなりのものになりました。



果樹もやはり付近の自然風土にマッチしたものは生育がよい事に気付き、この地域の自然に群生しているハスカップや栗の木等の増殖に力を注いでいるところです。

アイヌ語に由来するハスカップの名称にはなじみのない方も多かもしれませんが、学名クロミノウグイスカグラ、黒紫色で酸味が強く、

ヨーグルトと一緒に召し上がり方、砂糖が入ると独特の風味に変わり、そのまま食べてもおいしく、ハスカップジャム、ハスカップワイン、各種の和洋菓子として商品化される等、この地域ではなじみの多い果樹です。

このハスカップを挿し木で苗木を作り増殖し、その外にも将来の森林浴や果樹園を夢見て多くの樹木の苗木を植えてその成長を楽しんでいるのですが、まわりの辛口の冷やかして「成長した樹木は誰が眺めるのですか？」・・・と、私自身の耐用年数？と計画がマッチしていないとの指摘に苦笑いしながらも、ただひたすら泥まみれになりながら無心に汗を流し楽しんでいる昨今の私です。

ホッキ貝漁獲日本一

北海道は食べ物がおいしいと皆さんから好評ですが、最近わが街の特産物として周知しているのが「ホッキ貝」です。

海に面している街ですので、いつも豊富に新鮮な海産物を味わうことは出来ますが、その中でもホッキ貝は日本一の漁獲量が続いていますので、「市の貝」に指定して、このおいしい食べ物を皆さんに味わってもらいたいと街をあげて今盛んにPRしているところです。

ホッキ貝は関東以北から北海道までの海で獲れますが、漁業者が産卵期の漁獲の自主規制や、良質のホッキ貝のみを出荷するよう品質管理して、日本一の名を高めるように努めていることも特筆すべきところです。

ホッキ刺し、ホッキカレー、ホッキラーメン、ホッキ餃子、煮物、和え物、揚げ物等などたくさんメニューがあります。

取れたての新鮮な素材で調理したおいしい料理を、思う存分味わっていただきたいと思っています。



北国のパーゴラ作り

北海道支部 No.358 松村 久一

これを読んで頂く皆さんには申し訳ないのですが南国の話とは、かけ離れた北国でのパーゴラ作りの話をしたいと思います。

まずは、写真1(パーゴラ風物置)を見て下さい。立派なパーゴラでしょう。・・・と言いたいのですが見る人が見ると、「こりゃ、単なる物置小屋だな」ということになります。当初は、DIY本にある本格的なパーゴラを作るつもりでしたが屋根もつけなくちゃ、壁もつけなくちゃということで結局こんな按配になつてしまいました。



写真1 パーゴラ風物置

さて、自己紹介ですが私、来年定年を迎える団塊世代の59歳。支部では、柄にもなく総務を担当しております。南国暮らしの会に入った動機は、御多聞にもれず「寒い北国、南国に行かなくちゃ。」ということです。60歳南国スケジュールで計画を練っていましたが一昨年、勤め先の会社の方から「シニアなんちゃら」の制度を作ったのでどうするという打診がありました。私、家内と相談しますということで返答したのですが、家内曰く「もうすぐ定年なんて言っていないで働きなさいよ。社長に泣きすがってでも良いから働かせてもらいなさい。あなたは、働かなきゃならないのよ! 濡れ落ち葉にならないでよ。」とこう言うではないですか。他の答えを期待した私が甘ちゃんでした。(長い間お勤めご苦労さん。これからは、ゆっくり二

人で過ごしましょうねとか何とか...)

また、周りも「会社、やめると最初は、良いけれど段々胸にぽっかりと穴があくよ」とか、「なんか、ふわふわした感じになるよ」とか言うもんですから主体性なく「じゃー、もうちょっとー」と会社に返答しちゃいました。

さて、余談が長くなりましたが本題の「北国のパーゴラ作り」に入りたいと思います。南国暮らしと余り関係のなさそうな話なんですが、いきなり、このテーマを取り上げたのは、兎に角、まつわる話題に事欠かなかったことと北国のそれも定年近い、おじさんの暮らしぶりを少しは、皆さんに紹介できるかなと思ったからです。

1. 先ず、何のためにパーゴラ風というか小屋を造る気になったのかですが。

家内の「濡れ落ち葉」発言、これが効きましたね。以来、そうならないためにはどうするか。自分の城がどこかに必要、それも誰にも邪魔されないどこか静かなところを確保したいというのが自分なりの結論です。

「自分の城」これがなかなか簡単に造れるように造れない。ところが、世の中、同じような考えというか、境遇というか、やはり、いるところには、いるもんですね。現在住んでいるところから車で15分位のところにそのような人たちの溜まり場、集落が在ったんです。写真2(ダーチャ的生活)を見て下さい。



写真2 ダーチャ的生活

ここの住人、ロシア風ダーチャ的な生活をし

ているんです。この人達の影響をまともに受けちゃいました。こんな風に自分も造ってみようかと。全くの推測ですがこの人たち、多分違法建築なので税金は払っていないと思います。一歩間違えば...

まあ一、それで勢いというか成り行きというか近くに原野商法の成れの果ての土地64坪があったので昨年、ついつい買ってしまいました。

本当は、これに至る、市民農園、野菜作りの話も書きたかったのですが紙面も限られていましてので話題を絞ります。野菜作りを書き始めますと3大天敵(害虫、雑草、動物)の話等から、蛇の話しから、隣人の話しから、耕運機(写真3 私と耕運機)の入手の話し等、話題が有りすぎて書ききれないのでこの辺で止めときます。



写真3 私と耕運機

さて、それやこれやで土地も確保した、ボロだけど耕運機を入れる物置小屋も作った、後は、隠れ家的、パーゴラ(最初はそのつもりだった)の確保だな。一人でもいいや、独力で造ってみるわい...と、こう決心しました。

2. ところが実際に一人仕事でやってみると、やはりアマの悲しさ... 水平レベルを出すのが思いの外難しい。釘の頭がつぶれ、思ったように材木に入っていない。意外に屋根に傾斜をつけるのが難しい。図面と現場が思うように一致しない(寸法が合わない)。

資材が長尺のため、軽トラックで何回も一人で運ばなければならない。木材への防腐剤塗布が素人が思うほど簡単ではない。ムラが

できる、等等、実際は、苦労しました。何事も自分でやってみて経験しないと分からないものです。この歳で自覚しました。

3. 約半年間の私のささやかな労力投入の結果、写真1にあるような形に何とか仕上がりました。これでも、ポリカ透明屋根を半分かけた、半分は、ツーバイフォーのウッドデッキだ、二方向のポリカ透明壁は開閉可能だ、相当なものだと勝手に自画自賛しています。

4. 今年の計画・抱負について

- ・ウッドデッキ風小屋の半分にポリカの屋根をかけて更に完成度を高めたい。
- ・今年も野菜の三大天敵(害虫、雑草、動物(アライグマ、鹿等))と戦い戦果をあげたい。
- ・ひそかな楽しみとしての燻製作りにチャレンジしたい。
- ・井戸掘りにチャレンジし地下水をポンプで汲み上げたい。

どこまでできるか分かりませんがゴルフの回数を犠牲にしてもチャレンジしたいと考えています。

最後に、ゆくゆくは、この貴重な経験を南国で生かしたいと思いますが、会員の誰かその方面に詳しい人はいませんか。どうでしょう。

南の会北海道支部ユウレイ部員

北海道支部 No.982 山本 英一

北海道の人はおおらか

自分で言うのも照れくさいですが北海道の人はおおらかです。なぜでしょうか? 北海道の冬は、長く厳しく、この文章を書いている当地上土幌の今夜もマイナス20度を下回るでしょう。もし、裸で外に放り出されたら5分で凍死してしまいます。そんな非情な一面を持つ大自然の中で暮らしているせいか、簡単に人を中傷したり戦いを挑んだりしません。道産子同士は、なおさらです。

ユウレイ部員

と、予防線をひいて本題に入ります。実は僕、北海道支部の総会に出席したことはありません。会員が何名いるかも知りません。北海道独自のメーリングリストに投稿したこともありません。こういう～ないないづくしの会員は、ユウレイ会員と言うそうですね。じゃ、こんな僕がなぜ南の会に入会しているかという、向かいに住んでいる賀陽さんとその仲間たちがその理由です。賀陽夫婦の社交的な人柄か、夏、彼らのもとを訪れるお客さんはとても多く、毎夜毎夜宴会が続きます。

僕にとって国際色豊かな南の会の会員と話せる機会はとても刺激的で、呼ばれてもいないのに酒を背負って自然と宴会の人となります。で、その席で毎度の僕の紹介は「釣が好きで北海道の真ん中に移住してきた歯医者さん」となるわけで、酒の上に酒がはいり、翌朝、ほぼ全てのお客さんは、北海道の自然を肌で感じよう！となかば拉致状態で海上、湖上の人になっていたわけです。

南の会会員の優れた？共通点

賀陽さんは、僕がいくら魚を大漁してきても、大喜びして後始末してくれます。戦後のものがない時代はつらかった、こんなに新鮮な食べ物があるのは夢のようだと言いながら、50匹を超える鮭を平然と解体し梱包していきます。こんなに魚を釣ったんだぞと自慢したい僕とグッドコラボレーションです。

いつぞや、工藤支部長と賀陽さんと湖にヒメマス釣りに行ったときの会話です。僕「工藤支部長、もう100匹以上釣れたと思いますが、これ以上釣ると後始末に困りませんか」、支部長「ぜんぜん困らないよ。もっともっと釣ろう」

また、僕「賀陽さん。ここでおなじ魚を釣り続けて飽きませんか」、賀陽さん「ぜんぜん飽きないよ。もっともっと釣ろう」 う～～ん。ねちっこい人たちです。よく考えたら他の南の会のお客さんもみんな同じだぞ。さすが戦後復興期の立役者たち、写真参照。

自慢話

というわけで、北海道の釣りに興味をいだいた諸先輩、一度こちらにいられてはいかがですか？ 参加資格は僕の自慢話を1時間以上聞いていただくだけで十分です。また、向かいの賀陽さんのペナンでの武勇伝を拝聴できる特典もつきますよ～。

大漁祈願 大雪山国立公園東の里上士幌町の山本でした。



ペナン木村夫妻 50cmを超える虹鱒を手に



工藤支部長 賀陽夫妻 ヒメマスの釣果



ペナンの舟生姫が姫鱒を釣る。後ろ僕

ペナン島の西側って？

北海道支部 No.349 賀陽 恒磨 不二子

《夏の5ヶ月間は北海道、晩秋から春先までの7ヶ月間はペナン》という2重生活をしていません。

正直な話、夏の北海道はメッチャ素晴らしいのですが、ペナンの風物や生活感覚が身についたせいか、郷里には海がないし、物価は高いし、かつ屋敷周りの草刈りが大変だし、時々イヤな仕事が舞込んで来るので、『もうイヤだ、早くペナンへ帰ろうよ』と女房を困らせています。

ペナンでの生活は自由気まま。決められた日課は《ゴルフと女房のマッサージ》だけ。ゴルフは週2回、《スコアより健康維持だ》なんて負け惜しみを口にし、女房も足腰鍛錬のためと芝生の上を《年金増えろ、年金増えろ》と歩いています。マッサージは週1回我が家に来ていただいています。

そんなことで殆どの時間は自分達のしたいことに精を出し、また気の合った6組ほどのご夫妻と遊びほうけています。家計簿を眺めると月の半数以上はこれらご夫妻と昼食や夕食をともにし、愚痴をこぼしたり情報交換したりと、肩の凝らない話題に話が弾みます。

好奇心旺盛な私は《何でも経験しちゃおう》となるのですが、特に好きなのは《田舎のドライブとデジカメでの写真撮り》。この2年間《地元の人知らない》という田舎道を走り回り、愛車の走行キロ数も月間1,500キロに達してしまいます。

ペナン島には東西2分する山なみがあって、バヤン・レパス、ジョージ・タウン、タンジョン・ブンガ、パツゥ・フェリングなどの工業・商業・観光地帯は東側で、都会の要素を兼ね備えた立派な街なんです。でも一方の西側は自然が沢山残っている農漁村地帯で、《南国特有の椰子の木並木や高床式の住宅が点在》し、マレーの原風景があちこちに観られる自然豊かな地域なんです。私たちはこの西側の《半未開の地域が大



好き》なんです。

名前も住所も知らない無邪気に遊ぶ子供達、庭で語らうご夫婦、またマレーの原風景や珍しい花も撮り続けています。ハイビスカスは12種類も撮りました。モスリムの結婚式の写真も沢山撮りました。祝宴、お酒はご法度なのですが、沢山の手料理が並び『食べて食べて』と変な外人の私たちを一所懸命もてなしてくれます。

2～3週間後、伝えたいことを紙に書き、プリントした写真を持って『へロ・へロ』と一軒一軒探し歩きます。探し当てて写真を渡したときの喜びようは、それはそれはとても言い表せないくらいの笑顔を見せてくれます。時には写真の主が判るとオートバイで先導してくれたりもします。

ある時街中で、《カヨカヨ》と呼ぶ声が…。一瞬振り向くと、そこには写真を渡した彼女がいるではありませんか。そんな時、私も女房も《至極の喜びにふける》こと言うまでもありません。

帰り道、日本人会が管理されている日本人墓地に寄り、先達に《お蔭さまで…》と手を合わせて帰宅するのが、今の私たちの生活パターンというところでしょうか。

そうそう今回寄稿している《山本ドクター》、私の息子みたいな隣人です。夏の北海道は釣も最高、どうぞ遊びにいらしてください。2組で歓迎しますよ。

ゴールデンシャワーの咲く国へ

北海道支部 No.613 富樫 則子

今回で3度目のバンコクロングステイですが、色々な事が重なり何からお話したらと？ 考えましたが、途中を省きテロ事件からと思います。

バンコクのクリスマスは、本当に仏教国？と思う位の美しさで、街中イルミネーションでキラキラと目を見張るくらいです。タイの人達はクリスマス、年越し、を一緒にするようです。

私も知人のタイ人のお姉さんのお宅でのパーティにお呼ばれました。大人12人子供7人の大家族で豪華な4階建です。広いお庭のガーデンパーティを3時から始め、6時には1階の食堂で食事、その後3階でプレゼント交換、子供たちの歓声の中、一人の子がピアノで蛍の光を演奏してくれました。1番を私が日本語で2番をタイのお祖母さんがタイ語でと、和やかなひと時でした。最後にケーキを前にお祖母さんが1年の感謝と来年の皆さんの健康を祈って、ケーキを頂きました。

その内テレビでアヌサワリーのバスプールが爆破されたと、テロのニュースが流れ皆さんの顔色が変わりました。私の滞在していた地域です。少し離れているからとお話して時間を少し遅らせて送ってもらいました。周辺は爆発の後が生々しく凄い警備でしたがその間も花火がうちあげられ、何か所かの爆発現場へ行くパトカーのサイレンの音で何が何だか解らない年越しでした。

それが影響していたのかメールの送、受信、がスムーズにいかなく受信出来ても読むのに2~3日かかる事も。後で聞くとクーデター、台湾沖地震、テロなどが関係しているとの事でした。テロ以来デパート、地下鉄、等でバックの中身の検査。タクシーでホテルへ行くとトランクまで開け車体の下にも何か器具を入れての検査が続いていました。

そのような状態にもかかわらず沢山の知人が

バンコクに来てくれました。一緒に遊ぶ予定が入院ステイした知人もいて、胃腸が悪くて24時間点滴している人の昼食にラーメンが出ているのに驚き、3時のおやつもありました。私も同じ病院に風邪で通っていましたが、あまり治らないので今日はペニシリンを注射しますと言われ、私の持病(間接リュウマチ)とアレルギーカルテに記載されていないか確認してもらい、先生いわくアッ！これは駄目ですね。一言、普段から何の薬をのんだら駄目かきちんと把握しておく事が旅行する時は絶対必要ですね。

バンコクにはタイ暮らしの会と言う日本人会があり、希望者を募り小旅行をしていて、今回はタリンチャンと言う所へのお誘いをして頂きました。10時にプロンポン駅前に集合し、15名の参加者でそこからタクシーに分乗して行きました。道の両端には市場が出ていて果物、お菓子等を買って楽しんだ後は川の上のレストランで海老、魚、肉、等を焼いて貰い皆さんで頂きました。次は船で往復3時間の川下りで途中お寺の見学、動物のショー等見ながら途中木に果物がなっていたり川へ子供達が飛び込みしていたりと楽しい見学会でした。



ランチ



水上家屋

帰りは現地解散で最初に1人500バーツ徴収していましたが300バーツの返金があり、又タクシーで帰りましょうということに。でもなぜか皆さん断られていました。白い綺麗なタクシーがクラクションを鳴らしてきたので、プロンポンまでと言うとオーケー、女性4人で乗りました。途中1人が何時にプロンポンへ着くか聞いてと言うので聞くと、4時30分との返事。みんなで随分早いね、車空いているから等と話しているとフアラボン駅に着け、ここだとの事。私は違う、プロンポンと言ったと言い、動こうとしない運転手さんに貴方仕事でしょ！私たちは疲れて動けないと頑張り、彼はしぶしぶ目的地迄行ってくれましたがタイのタクシーは遠くへは行きたがりません。ステイの度に口だけ達者になって行きますが、発音の悪さを反省した1日でした。

後半は1月に来客が重なり体調を崩し寝ている事が多い日々でしたが、気分の良い日は1人あちら、こちら。レントルームの張り紙を見て電話して見せてもらったり、何か月から貸すか聞いたりしていました。結局きっと又今回と同じ所かな？と思っています。

今回の所はスタジオタイプ、ダブルベット、バスタブ付、NHK、お掃除週2回、スカイトレーンすぐ向かい、セキュリティ24時間、スーパー向かい、家賃16000バーツ、デポジット1カ月、300バーツ水道代で便利&セキュリティで、昨年1ヶ月滞在してみて今回も泊まってみました。

後になりましたが今回観光ビザの取得が面倒になりました。タイの滞在期間中の保証人からの招待状、保証人のIDカードかパスポートの写し、ステイ期間の行動予定表等を英文で送ったほか預金残高証明、パスポート、航空券のコピー等でした。

クーデターの後だったのでもっと厳しくなるかも知れませんかと言われました。でもイミグレーションでは支部長婦人が同行してくれたおかげで面倒な手続きの仕方など教えていただきスムーズに行きホッとしました。



お参り

又ゴールデンシャワーの咲く国、大好きなタイ人の家族、日本人の家族がいてサポートがあつての3カ月1人でのステイでした。今回は来客を迎える大変さも勉強しました。

心から感謝して又逢える日まで体調管理します。

初めてのメルボルン

北海道支部 No.582 大塚 政明 / 恵美子



翼が右に大きく旋回し始め飛行機の窓から朝日が差し込んできたので思わず顔を近づけ覗き込むと、赤茶の土が目の前に飛び込んできたのです。

成田空港を発ち約11時間ほどの空の旅である。私達の初めてのオーストラリアであり、旅の目的が姪の結婚披露パーティー参加が目的でした。

メルボルン空港の到着ロビーには既に新郎(オージー)の親族が大勢で出迎えに来ており、いきなり「オージーイングリッシュ」を浴びせられスタートからとまどいながらBrightonのSavoyホテルに到着。この街はどこかイギリスの風景に似ていて、家並みもイギリス風なので恵美子が



昔、イギリスのBrightonでホームステイしていた頃を思い出したところ、イギリスからの人たちが多く住んでいるので同じ地名とのことでした。

到着したその日の午後には新郎の両親それに親族と大きな庭でのBBQパーティーが真夜中まで続き、翌日の夕方からいよいよ披露パーティーです。

二月のオーストラリアは真夏で午後8時半ごろまで薄明るく、パーティーは自宅の庭であったことからPM6:00からPM12:00すぎまでなんと6時間以上。お祝いに駆けつけた国際色豊かな50人ほどの人たちは飲んで踊って楽しんでいるのです。

その間、我々日本人は「オージーイングリッシュ」との会話にクタクタでありました。

そして、日本との習慣の違いにも大いに驚きながらパーティーは無事終了し私達も初めての経験を楽しむことができました。

もちろん僅かな自由時間は野生コアラとカンガルーそしてオーストラリアを知るため文化、自然、歴史とさまざまな魅力をもつメルボルンをエンジョイしてきました。

フィリップ島自然公園のリトルペンギン

世界で最も小さいペンギン(30 cm位)が行うサンセットパレードは海からあがって海岸を横切って、砂丘にある自分達の巣に戻るペンギンの姿が自然そのものの光景には本当に感動を覚え、今も時々夕暮れどきのフェアリー・ペンギンを思い出す事があります。

グレート・オーシャン・ロード

海の中に切り立った奇怪な岩が並ぶ、つまり、その奇岩群は長い年月と風化が作り出したものでした。

規模は違いますが我々が住む北海道にも似たような自然があることを発見できたことです。

それは積丹半島界限です。海の色も似ていると感じましたが遙かに積丹の海の方が深いマリブルーで魅力的である。

メルボルンってどんな街？

「英国風の町並みと緑が美しい」とガイドブックにありましたが、これも高層ビルを除けば札幌にちょっと似ているのかな？ 札幌にも路面電車がありオーストラリアのトラム(路面電車)も形も似ています。

それに英国は二度ほど旅をしましたが、レンガ造り建物が多く高層ビルは少なかったと思いましたが英国からの移民者多いからでしょう。

英国は木々と緑も緯度が近いせいか北海道に良く似ていると感じております。

ツアー・ガイドの嘆き

「安・近・短」ガイドが何度も「アン・キン・タン」と繰り返すので何のことかと聞いてみると、最近日本人ツアーが少なく商売にならないとのことでした。つまり、旅費が安く・日本から近い・短い滞在との意味ですが訪れる日本人の殆どはケアンズが中心で、遠いメルボルンまではなかなか来てくれないとのことでした。

「アン・キン・タン」はガイド仲間ではそのまま英語になっているそうです。

最後に私達はオーストラリアの大自然が大好きです。

いつの日にかTHE GHAN鉄道でアデレードからダーウインまでオーストラリアの大自然を窓ごしに追いながら、さまざまな風景や人に出会える鉄道の旅を夢見ております。

ダイビングへのお誘い

北海道支部 No.1042 小屋 秀俊

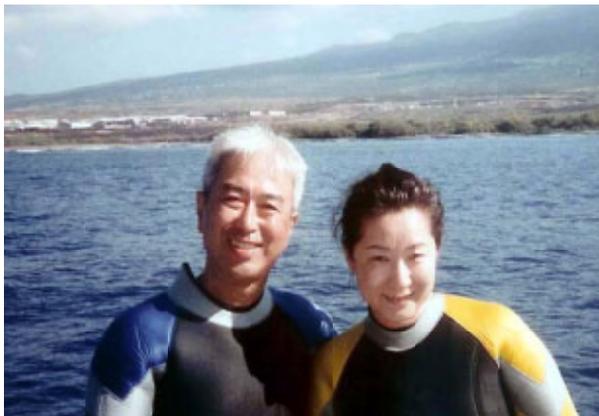
はじめに：

「南国暮らしの会」の”南国”といえば、海あるいは海のレジャーが連想される。もちろん南国暮らしの目的は異国の地に来て住んでみて、気持ちをリラックスリフレッシュすることが目的の一つであるわけだが、是非その中にダイビングを加えてみてはいかがだろうか。

ダイビングといっても空を舞うスカイダイビングでも崖から飛び込むダイビングでもない。

スキューバダイビングと呼ばれる海の中を散歩するダイビングのことである。

”南国”にはダイビングのできる場所が少なくない。



ハワイ島にて

ダイビングって何がおもしろいの？：

一言でいえば、ふだんの生活では体験できない未知との遭遇だと思う。カラフルな生き物たちの群れや珊瑚との遭遇、また鳥になったような浮遊感、ふだんの生活で人間の上を生身の人間が交差して通過していることはあり得ない。また海底（地上）まで10m以上もの上空を自由に飛べるのである。

例えて言うならば、4～5階建ての屋上からふわっと飛び出してそのままどこへでも飛んでいけるとでも言ったらピッタリしているかもしれない。高所恐怖症の方は最初は怖いかもしれないが、慣れるとなんでもない。

私にもできるの？：

決まって来る質問である。その次は「泳げないけど...」である。大丈夫、私も実は泳げなかったが先にライセンスの方をとってしまった。

沈めればできるのである。おもりを抱いて入るので絶対沈むことができる。その後浮いてこなければいけないのだが、これも自在に大きさをえられる浮き袋をつけているから絶対浮いてこられる。

後は水中で浮きもせず沈みもせずのバランスを、おもりと浮き袋の調節で取っていれば足ひれだけで前へ進む。

危険なことはないの？：

それはないことはない、というより一杯ある、ルールを無視すればである。

沈んでいくときはそれほど危険なことはないが、浮いてくるときが一番危険なのである。

水中で何かあっても上を見上げれば水面が見えるので、急いで水上に出ようとするがそれが危ない。深さにもよるが肺が破裂したり血管の中に気泡が出来たりしてしまうのだ。ダイブの時は、6～8人ぐらいが1グループとなり1～2人のガイドがつく。

ガイドはその地形や潮の流れを知り尽くしているので、彼らの言うことは絶対である。

水の流れは様々に変化する。水平的にはたとえば岸から沖へ流れるものがあるが、それに乗ってしまうと遙か沖まで行ってしまう。

海の流れは川の流れと同じぐらい速いこともあり、水中では「ゴー」という音がして岩に捕まっていなければ飛ばされてしまうことがある。

垂直的に問題があるのは、噴き上がるような流れには問題ないが、下へ引っ張り込まれる流れは危険である。

水中での崖っぷちまで行って、沖を泳ぐ魚を見ることがあるが、不用意に身を乗り出して崖から離れると深遠なる海底に引っ張り込まれることがある。普通我々は15～30mぐらいで遊ぶのだが、がけの下は何百mという真っ暗闇の世界ということもある。



水中5人

あまり脅しても今回の趣旨から離れるので次に行きたい。

始めるのにはどうしたら？：

まず潜るのにはライセンスが必要である。様々なランクがあるが、普通は1番下かその次ぐらいで十分である。

スポーツクラブやダイビングショップなどで申し込める。料金は4万円ぐらいで、2～3週間から1ヶ月ぐらいかかるが、沖縄やグアムまで出かけて4～5日でとってしまうこともできる。

ライセンスをとったら後はダイビングのできる町にある「ダイビングショップ」で申し込めばOKである。一人で申し込んだ場合でも何人かのグループを作ってポイントまで連れて行ってくれる。

機材は自分でそろえてもレンタルでもかまわない。自分でそろえるとけっこうな金額になるので、頻繁に行かないのであれば最初の内はレンタルの方がいいかもしれない。

なお始めるに当たってはできれば夫婦で取得するに越したことはない。我々夫婦も同時にライセンスを取得した。なぜならば一人でもってなかなか長続きがしないし、いったん重くなった腰がなかなか上がらないのである。

そのことがロングステイの目的地選びにも影響を与えるからである。

どこで潜るの？：

基本的にはどこでも潜れるが、やはり珊瑚礁などの綺麗な海で潜りたい。

そもそも珊瑚礁というのはどこにでもあるわけではなく、インド洋から太平洋の、赤道から亜熱帯に集中的に分布する。

従ってアメリカのリゾートのマイアミ・ケイマン、ヨーロッパの地中海などにはない。

その地域のどこにでもあるかということでもない。地形やプランクトンなどの生き物・海流など様々な要素により楽しめるポイントは限られてくる。

ロングステイをしながら楽しめるところって？：

そもそもロングステイに適したところというのは、ある程度滞在施設があり、食事や楽しむの機会もあり、人もそれなりに住んでいて、物価が安く、犯罪もなく、云々と皆様それぞれの定義をお持ちであろう。

それに照らして、私の数少ない経験だけで言うのも叱られそうだが私見を言わせてもらう。

国内の南国といえば沖縄だが、本島から船で二時間ぐらい西に慶良間諸島というところがある。ダイバーのほとんどはここを訪れているというほど、国内ダイビングのメッカである。

島々に小さな村が点在しているが、ダイビング以外楽しみもなく、それを考えればまだ石垣島や宮古島の方が町が大きい点で向いている。

海外では、日本から気軽にいけるところではグアム・サイパンがある。ここはポイントにも近く、町の施設も充実しているので向いているかもしれない。あまりロングステイの話は聞かないが、私の知人は人工透析を受けながら滞在していた。何かの時に日本に近いというのも安心なのだろう。

次にダイビングのメッカ、パラオ。ここの海はダイビングに必要な要素はすべてそろっており私の一押しであるが、町は小さく、ホテル以外ロングステイ用の施設はないようなので残念ながら不向きであろう。戦争の激戦地であったが、今はダイビングやシュノーケリング以外で

訪れる人は少ないと思われる。

セブでもダイビングができるが、綺麗な魚を見るためには市内やマクタン島から二時間近くボートに乗らなくてはならない。[nangoku] メーリングリストの 28 Feb 2007 「2月のセブ」のなかでNo646 渡辺 徹さんが報告している。南の会の支部もある。

ブーケットでもできる。ボートで一時間ほど南下するが、小魚しかいない。ジンベイザメなど大物を見ることもできるが、ブーケットから数日のクルージングにでなければならぬ。町はにぎやかで、それなりにステイできるかもしれない。ペナンには残念ながらポイントはない。シュノーケルだけである。南の会の支部もある。

モルジブは島国である。私の一押しの一つだが、ほとんどの島が一島一リゾートホテルの作りになっていて、島一周が10分程度のところもたくさんある。ロングステイは出来ないし、標高4~5mしかないので地球温暖化でそのうち水没する島が続出するだろう。

バリ島でのダイビングは会報'07新年号でNo. 758 白井征勝さんが報告しているが、ポイントまでかなり遠い。リゾート地であり、ステイには向かないと思う。

ハワイだがロングステイには向いているかもしれないが、オアフ島やマウイ島などにはポイントがほとんどない。一方ハワイ島はポイントにも近くロングステイヤーも多いところである。ここはいいかもしれないが午後から天候が悪くなることが多い。今年支部が出来た。



オーストラリア東海岸にはグレートバリアリーフという日本列島と同じぐらいの長さの珊瑚礁が横たわっている。リーフ中間ぐらいのケアンズからボートで1時間ほど沖にでるのであるが、町も大きくロングステイには向いていそう。しかし町の海岸線はひどく汚い

ゴールドコーストはケアンズから南へ2時間ほどのところで、ロングステイヤーが多いところだが、ここにはもうグレートバリアリーフはなく、ダイビングも出来ない。新しく支部ができるそう。

他にも行ってみたいところがいくつかある。ニューカレドニアやタヒチそれに紅海・バハカリフォルニアなどであるが、雑誌で見る限りではロングステイには向いていないようだし、実際ロングステイヤーがいるのも聞いたことがない。

いろいろと書いてきたが、結局はダイビングに主眼を置くかロングステイに主眼を置くかによって場所選びがかわってくるということになる。どちらにも均等ということになれば、国内では石垣島あたり、海外ではグアム・サイパン・セブ・ケアンズ・ハワイ島あたりということになるだろうか。

私はまだ現役で仕事を持っており、今まで1ヶ月間ぐらいのステイ経験しかなく、将来的にはロングステイを夢見ているステイ予備軍である。

我々とはいうと今のところ、ダイビングのできるところにそう遠くないところにステイ、そこから時々集中的にダイビングに出かけるスタイルを考えている。たとえば、ゴールドコーストにシーズンリーロングステイ、その日本からの行き帰りにケアンズでのダイビング、等である。

かなり決めつけたことを書いたが、ご批判は甘んじて受けよう。私の見識の浅さである。お許しいただきたい。

シニアにもやさしいバリ

北海道支部 No.892 加賀谷 功



2月の始め北海道支部の役員さんから、おめでとうございます、1等が当たりましたと言うチャットが。一体何が当たったのかと、誰かとの間違いでは、スカイプで確認したら、春季号でスティヤ旅行の、北海道支部の人達からの特集も組まれる、それに当たったとか。当り方も人生と同じくいろいろあるもんだと。

17年2月に入会、その秋10月中旬にスティ調査の名目で、バリに夫婦初めての海外旅行、一路、千歳 - 関空 - テンパザールへ、所要時間が11時間掛かりました。50ドル払い荷物も取って税関通過、名前の書いたプラカード見落としのか外に出てしまった。よく確認したらホテルのヤングボーイが待っていた。

朝、部屋からインド洋が視界一杯に広がっている景色を堪能、格安航空券で夜中に着いた割りには中々よいホテルであった、ドライバー付の小型ボンゴバンで早速出発、快調に市内観光。

お昼が一寸と過ぎた頃、日本語のラーメン店発見、入ることに。麺も味も美味しく戴き満足、次ぎの寺院へ。バリでは寺院に入る時は、サロンと呼ばれる布を腰に捲いて入ります。有料で貸し出してくれます(日本円で15円前後)

サンゲエのブキット、サリ寺院では猿が頭に登ってきた。ここの猿は身分も高いと言う話で態度もデカイ、バリ6大寺院も4日間かけて廻り、普通はこれで帰国のパック旅行ですが、10日間延長しておいた。

今度はキンタマーニ高原へ1400m位の高

地で、昼間でも涼しく展望台からの風景は実に雄大そのもので感心するほどの絶景だ。バүүл山が望め、中央足下には神秘的なバүүл湖が、大噴火で流れた溶岩が湖岸まで達して、草木は1本も生えてません。黒々とした岩石の光景は圧巻であった、今日のもう1つの目的は、キンタマーニ犬に御目に掛かること。この犬種名前の通りこの辺が原産で、飼い主に忠実で番犬に適した性格をしているとか。トルニヤンにも行ってきました。対岸のこの村はバリ人が渡ってくる以前から住んでいた先住民で船着場からバүүл湖畔を右に5分程歩いて、山側に向う山道に少々入ります。両側にいやに多く骨が散らばっていて、何か薄気味悪い。トルニアン村から離れた墓所、風葬の習慣が未だに残る村で、見た風葬は3ヶ月たっているそうです。衣のような物を着せて竹で三角に組んで風が入るように被い、安置していました。香木が有るとかで異臭はしません、

風葬が残っているのは、このトルニアン村だけとか、初めて訪れる人にはかなり刺激的な光景もあります。

トルニアンの人達は一生この村で生活し対岸のバリ人が住んでいる所には行かないとの事です。

日本では絶対に見ることが出来ない体験でした。次ぎのテンパザールへ、バリには洗練された雑貨店が多くありますが、店員さんがよく計算機を叩く。日本語値段の値引き具合が、テンパザールの市場も活気に満ちて、バリ人の日常生活必需品のありとあらゆる物が売られています。人々の生活を垣間見る思いです。

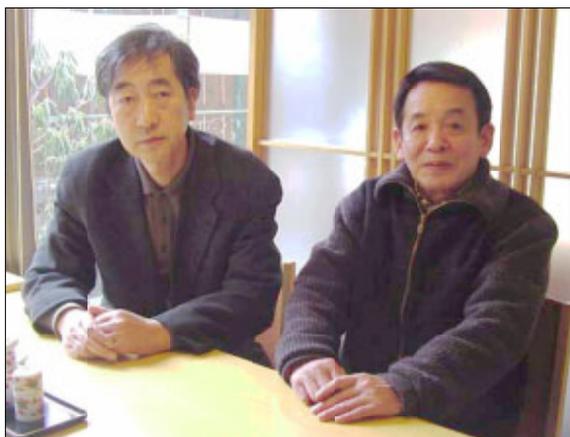
市場から20分位離れた所に戦前戦後バリ発展の為に貢献した日本人の立派なお墓が有り、バリの人達が花を捧げていました。又インドネシア独立の為に戦った日本人の慰霊塔が建ちバリに生涯眠る。バリ人のやさしい気持ちに感謝、バリは自然、景観、芸術、寺院等シニアにも楽しい旅が約束される、心温まるバリでした。

又これからの北海道、季節的にも最高のシーズンに入ります、こちらま宜しくお願い致します。

日高路の風景

北海道支部 No.258 松山 和弘
No.777 小松 浩

北海道のエリモ岬に近い小さな町に住む二人ですが、私たちは、未だショートステイの体験談・情報を持っていませんので、南の会員さんが当地旅行のとき、より地域を分って頂けるような地域の基幹産業とか名所などを報告します。



(左)松山 (右)小松

北海道の背骨といわれる1500m級の山々が連なる日高山脈をご存知でしょうか。その太平洋岸の西側の裾野に位置する一帯なのです。北海道太平洋の玄関港の苫小牧からエリモ岬までの約120km地域です。日高山脈の名があるように日高管内とよばれています。では案内します。



山脈

競走馬の生産・育成牧場の地

南の会の皆様の中に競馬ファンの方がいたら、飽きることのない嬉しい地になるでしょう。

競馬場で活躍した馬たちが生まれ、そして帰って来る牧場地帯だからです。あの「ディープインパクト」も種馬になって元気になっています。

競馬好きの方ならご存知の事でしょうが、春の桜花賞から始まり、年暮れの有馬記念レースまでのビックタイトルを取る競走馬は、この地が出身なのです。

この日高地域は、日本の競馬場で走る競走馬の80%以上を生産しているのです。サラブレッド生産牧場の数は、1000軒を越えており、年間の生産頭数は8000頭におよんでいます。

ここで、牧場の一番忙しい時期となる春先の仕事の様子を書いてみます、春季会報が皆さんの手元に届く頃、生産地は出産シーズンの真っ只中です、サラブレッドの出産って3月から5月頃に集中します。

出産がおわると、1ヵ月から3ヵ月の期間以内に、来年も出産させるべくその母馬(繁殖牝馬とよぶ)に父親となる種馬(種牡馬)を検討します、どの種馬を選定して仔馬を生産したらお客さんが好んで買ってくれるか、そして種付け料の値段がいくらするのか、又この母馬から生まれた産駒が競馬場で良い成績をあげているのであれば、同じ種牡馬を受胎させると売り易いだろう、などと販売戦略をねるのです。

人間のお産と同様に、馬のお産も牧場の人たちにとって大変な作業です。野生馬とは違いサラブレッドは、すべて人の手で世話をしなければなりません。臨月が近づくとつぶさに母馬の状況・状態を観察し、寝ずの番もします。体調の良くない馬がいると獣医さんに駆け付けても



二月の馬たち

らうのです。

出産を終えて、仔馬が立ち上がって母馬のお乳を吸うのを見届けてやっと安堵するのです。牧場の春は、一年で一番繁忙の季節なのです。

日高コンブの話

夏の北海道を旅行すると、砂浜のある海岸でコンブ干しの風景を見ることでしょう。昆布採取漁の様子を、書いてみました。

海岸から少しはなれた岩場へ、昆布採取用の小舟に漁師が一人乗って向います。

ネジリ竿とよばれる長い棒を使って、海中の岩に根を張って昆布をネジリ採る作業を繰り返します。舟に適量の昆布を積み込むと、オカ（昆布干し場）に帰って来ます。オカで待ち構える人達をオカ回りとよびます。

その人達は、小舟にワイヤロープを掛けて砂浜に引き上げるのです。それから積載されている昆布を干し場へ移動し、順序良く並べて干すのです。その作業を3回ほど繰り返します。午後2時ころには、天日干しの昆布が出来上がります。こんな風景がやや2ヶ月程続くのです。

北海道沿岸では、各地に特徴ある昆布が採取されますが、この地は「日高昆布」の主産地です。この昆布は昆布巻き、佃煮、だし用など用途が広く使用できるので全国的に人気が高いようです。

同じ北海道沿岸でも 道東の釧路方面では、ナガコンブの名称で生産されています。この二種類が北海道昆布の70%を出荷しています。

日本一 桜の並木道

日高路のちょうど中央に位置する所に、静内(しずない)地区があります。

ひと目一万本の桜並木といわれ開花時期は、全道から花見客がいにり込むのです。

並木の規模なのですが、道路幅が36mもあるので地元の人達は、通称20間道路とよんでいます。並木の距離は、延々7kmに及びます。

エゾヤマザクラが道路の両側をピンクに染める光景は圧巻です。押しなべて当地域の桜開花時期は、5月の10日前後ですので、その頃北

海道旅行をされる方がいましたら、静内地区の花見をお薦めしたいです。

アポイ岳の高山植物群落

この山、標高800mです。エリモ岬に近い様似(さまに)地区にあります。ヒダカソウ・アポイアザミ・エゾイヌノヒゲ・サマニオドリギ・アポイカンバなど固有種や変種を含め80種以上の貴重な高山植物の群落が国の天然記念物として指定をうけている山なのです。この程度の標高なのに、何故高山植物が群生するのでしょうか。その訳は、海から4kmと近いので濃い霧が光を遮り気温を低下させ、2000m級の高山と同じような条件を作り出しているからといわれています。

又、春から夏にかけてのアポイ岳は、初心者でも半日コースの登山もできます、「何度も登ったよ」と北海道のファンも多いです。

一棟の長さ1000mの建物とは、

こんな建物が浦河地区にあるのです、答えは、競走馬の屋内トレーニング施設です。

直線1kmの走路なのです、室内なので冬の雪や凍結そして降雨時の気象に左右されることなく競走馬を調教できます。世界の競馬開催国においても、このような屋内トレーニング施設は、皆無でしょう。

JRA(日本中央競馬会)は、上記した調教センター・育成牧場・競走馬の研究所などを浦河地区に有して多方面から競走馬の質の向上をはかっています。

競馬もスポーツです、野球やゴルフ、サッカーと同様に、海外の競走馬と戦っていかなければなりません。20年ほど前日本は、まだ競馬後進国でしたが、最近、ディープインパクトのように海外遠征できる実力をもった競走馬が出現しています。日本産馬に応援をお願いします。

「森が海の魚を養う」を实践したエリモ式緑化工法

「やっと来ることができました」平成18年9月8日、えりも岬を訪れて、クロマツ植林

世界で一番住んで見たい街 パースでの2週間

北海道支部 No.742 池田 邦彦 恵子

地を視察された天皇陛下は、出迎えた地元関係者にこう挨拶したそうです。陛下の同行者の説明によると、陛下は、かなり前からえりも岬の植林の視察を強く望んでおりました。遠い地のためなかなか来られませんが、長い念願がようやく実現できたと、えりもへの来町理由を語りました。

明治10年頃から北海道開拓のため、このえりも岬の地にも本州から人々が移り住みはじめました。冬が近づくと付近の森に入って暖房用の薪を切り出すのです。そのような無秩序な森の乱伐が半世紀も続いたのです。その伐採の「ツケ」が回ってきました。

岬の周辺を埋めていた森も次第に後退し、海岸の緑もまばらになりました。岬の東海岸地区10kmのうち4割が「えりも砂漠」とよばれる不毛の砂丘地帯になっていったのです。岬地区は年間290日間、風速10メートル以上の風が吹くところです。一度、砂地になってしまうと容易に木が育ってくれません。

森のそのような悪状況は、海水にも影響しました。えりも岬地区も昆布と漁業が経済を支えています。生活の糧を昆布漁に頼っている人達から、悲鳴のような声がはじめました。「昆布が砂だらけで売り物にならない」と、はげ山から飛砂が飛んできて干せなくなりました。

えりも岬は、秋鮭が太平洋沿岸を回遊する位置にありました。明治の初めから鮭の好漁場でしたが、昭和になってから海水のにごりにより鮭の回遊にも見放されて鮭漁をやめてしまいました。海が濁ってしまったのです。

上記した悪状況から、えりも岬が這い出すのに30年も40年もの植林の試行錯誤がなされました。

独特の緑化工法でクロマツの植林も成功し、砂丘地帯から抜け出しました。鮭も昆布も戻って来ました。天皇陛下がえりも岬のクロマツ植林を視察されたかったのは、えりも岬の過去と現在までを理解されての行幸であつたのでしょう。

ロングステイの候補地として考えていた幾つかの所の一つとして、パースは何時か行って見たいと以前から考えていました。西オーストラリアの玄関口である州都パースは、「川と緑に囲まれた世界で最も住みやすい街」とか「世界一孤立した街」「世界一清潔な街」と云われており、日本からの西オーストラリアへの唯一の直行便がある街です。

そんなパースとは一体どんな街なのだろうか自分自身の目で、肌で一度感じてみたいと期待に胸を膨らませて、未だ雪にすっぽりと埋もれている北海道から旅立ちました。

パースについては、これまでパース藤本支部長初め多くの方が報告されているので、重複する部分も多々あるかと思いますが、その点をご容赦頂き、私なりに見てきた事、感じたことを率直にご紹介させて戴きます。

今回の旅行に当っては、事前にパース支部の支部長である藤本さんに沢山のアドバイスや、情報を頂き、また現地訪問後も大変お世話になりましたこと、ここにあらためて厚く御礼を申し上げます。

今回の旅行は、海外旅行としては初めての所謂「自分旅行」で、インターネットでの格安航空券の手配、ホテルの手配、3ヶ月以内の観光滞在に必要なE T A Sの手配をし、2月17日～3月3日まで2週間の滞在の大まかな計画を立てました。

最初は、ただ、寒い北海道から抜け出して、暖かいところで、のんびり、ゆったりとパースの雰囲気を楽しみたいと思っていたのですが、計画を立てている内に、だんだんと、あそこにも行きたいな！ここも見たいな！と欲張りになり、最後には2週間では無理なところは切り落とさなければならぬようになってしまいました。

最も心配していたのは、北海道在住者ならで

はの心配で、当日大雪になって千歳発の飛行機が欠航になった時、全ての計画と、支払い済の料金は無駄になってしまうことです。

数週間前にもその事態が発生していただけに、出発前の数日間は天気予報に釘付けでした。

いよいよ出発の当日、曇ってはいたものの、大雪の心配は無くホッと安堵して、真冬の北海道から、真夏のパースに向かいました。

《両替》

この日の為替レートは、中値で1 AUD = 95円台でしたが、いざ成田で両替しようと窓口に行き、交換レートを見ると、1 AUD = 103円台とビックリするような値がついていました。このところ、円安が進行しており、アメリカドル、ユーロと同様AUDも影響を受けている訳ですが、南の会の会報や、MLにもだんだんと外国でのLSに不利な方向になっていることがチラチラと見受けられており、今回それも実感しました。因みに、パースについてから、ホテルでの両替レートを見ると、105円台になっており、成田よりも高かったのですが、街中に何軒かある両替所では101円台で、結局円をオーストラリアドルの現金に替えるのはパース市内の両替店が一番得だということが分かりました。

《パース市内》

パースについてから2日間は、パース市街とその周辺をぶらぶらと観て廻りました。パース中心街はざっと、東西に2 km、南北に1 kmくらいの中にショッピングセンターや主だったホテル、会社が集まっており、パースシティ駅をはさんで南北に分かれています。

パース駅南側にはデパートやスーパーなどショッピング、レストラン街で、そのあたりは自動車の進入が規制された歩行者天国となっているので、多くの買い物客で賑わっています。沢山の人はいますが、紙くずやゴミは殆ど見かけることは無く、清潔感があります。駅の北側は駅と隣接するように、美術館や、博物館があるが、その他には余り大きな建物は無く、小さな店やレストランが多く、特に6時以降南側のデパー

トやショッピング街が閉まった後、北側にあるレストランなどの飲食店が遅くまで賑わうのです。

夜遅くなって、と言っても7時半以降にお酒や、夕食を楽しみたいと思ったら、駅の北側が断然バラエティーが多い様に思えました。

パース市街で何よりも驚いたのは、緑一杯の公園があちこちにあり、一寸歩けば直ぐどこかの公園に突当たり、心の癒しと、身体の疲れを取り除いてくれるようになっていることです。一寸散歩がてら街中のホテルを出て、スワン川でも見に行こうかと、ホテルやオフィスビルの立ち並ぶ道を抜けて、スワン川の見えるところまで来た時、そこで見たものは、とてつもなく大きな空間を持つ公園でした。その公園は、ラングレイ公園と言う名前で、幅約100 m長さは約1.2 kmで回りに椰子の大きな木が等間隔に植えてあり、数個のベンチが端においてある以外、他は全て芝生だけ、他には何にも無い公園なのです。恐らく他の国だったら、或いは他の街だったら、その中に噴水を作ったり、花壇を作ったりするに違いなく、この何もなさ思わず「すごい！」とうなってしまいました。

この緑の空間が、スワン側とビル街の間に広がっているのです。

もっとも、パース市街の南西側にはこの公園の数倍の広さを持つキングスパークがあり、そこからのパース市街の眺望は素晴らしく、多くの観光客が訪れ、市民の憩いの場としても親しまれています。



キングスパークから見た緑の多い
パース市街とスワン川

《パース市街の交通》

パース市内を移動するのに一番便利なのが、CAT (Central Area Transit)で、市内を縦横に走っています。赤、青、黄の3種類のCATが走っており、これらは循環型で路線が違うだけで、どれに乗っても無料です。我々もこのバスは随分利用させて貰いました。あらかじめ、旅行案内書やパンフレットなどを入手しておけば、どのバスが、どこを走っているかは直ぐ分かり、停留所にはおのおの名前と番号がついているので、赤の何番で乗って何番で降りるかさえ確認しておけば、簡単に目的地に行けます。

又、多少ずうずうしい様ですが、各々の路線を一回りずつ乗って窓の外の景色を見ているだけで、市内の様子を観察したり、観光を無料で楽しむことも可能です。CATは基本的に、7.5分おきに来ることになっており、停留所には、CATの時刻表は無く、7.5分もアバウトで2台連なって来ることもあれば、10分以上来ないこともあります。CATで注意すべきは、運航時間で、特に最終便は6時少し過ぎですので、未だこんなに陽が高いのにまさか最終便が行ってしまった筈はないなどと思っていると、いくら待ってもCATは来ません。実はこれは私達が実際に体験した情けない笑い話です。

CATの停留所は写真のように赤、青、黄それぞれの猫の絵が描いてあり、その横に番号が書かれています。因みに、パースの南西19km程のところにあるイギリス調の古い建物が建ち並ぶ観光港町フリーマントルにも同じく無料のCATが走っているの、利用すると便利です。

レンタカーを借りて市内を運転する場合、無料駐車場は皆無で、一時間\$2.5ドルの道脇



CATのバス停 猫の絵が付いているので直ぐ分かる

にあるコイン駐車が一般的です。藤本支部長のお話だと、最近、市内に出来るだけ車を入れないような政策で鰻上りで駐車料金が高くなってきているということです。道路は一方通行のところが多く、道を間違えると中々目的の場所に着けません。街のあちこちには、信号無視監視用の監視カメラが仕掛けられており、違反してカメラに収められると、後日、罰金支払い命令書が送られてくるそうです。これは速度違反も同じで、例えレンタカーであって、本人が帰国してしまっている場合でも、罰金の請求は来て、支払わないと、5年以内に入国しようとした時に入国拒否になると支部長から聞きました。歩行者の立場では、横断歩道の前後20m以内を横断した場合や、信号無視で横断すると罰金だそうですが、信号無視横断者はしばしば見受けられました。歩行者信号は青から赤の点滅になる時間が早く、普通に歩いても、大抵の信号は横断歩道の半分も行かない内に赤が点滅し始めるので慌てて走らなければなりません。

《パース起点の小旅行》

<レンタカー>

2週間滞在の内、後半の8日間レンタカーを借りて、行動範囲を拡大し、2回の長距離小旅行をしました。

車は、支部長に教えて頂いたパース市内のBayswaterと言うレンタカー会社で借りたのですが、4ドアセダンのカローラで、8日間保険も含めての料金は\$312、1日当り\$39と非常に安く借りることが出来ました。午後2時から3ドアハッチバックを借りるのであれば、8日間で272ドル、1日当り34ドルで借りることが出来ます。今回レンタカーを借りて、約2,000km 走りましたが、ガソリン代は、最も安いところでレギュラーが\$1.13、最も高いところで\$1.33で現在の日本のガソリン価格とほぼ同等です。原油自給率が日本より遥かに高いオーストラリアで何故これほど高いのか疑問でした。

マーガレットリバー・アルバニー旅行(ドライブ)

この旅行は、パース マーガレット・リバー(1泊) アルバニー(1泊) パースの2泊3日の旅で、総走行距離は約1,200 kmでした。旅行前日は、パースから20 km程北にあるジョーングラップのホテルに泊まっていたのだが、そこを朝10時半に出発、直ぐにパース方面に向うハイウェイに乗りそのまま時速100 km/Hで一路マーガレット・リバーに向って走ります。

支部長から、7 km/Hでもスピード違反で捕まると聞いていたので、105 km/Hを超えない様注意しながら、パース市街の横をすり抜けるようにひたすらハイウェイを南下、パース市街を過ぎてから約50 kmでハイウェイは終点となり、そこからは一般道になります。

直ぐにメイン道路の1号線に入ると、後はマーガレット・リバーの100 km手前のバンバリーまでこの道を南下するのだが、この一般道は制限時速が110 km/Hでハイウェイより時速制限が緩やかなのは何とも不思議です。

この1号線は片側1車線の狭い道なのだが殆どカーブが無く、両サイドは高い木や建物は一切無く、時々右側にインド洋が見え、牧場か低い木がまばらに生えている原生地であり、走っている車の台数も数分間に一度すれ違う程度で、110 km/Hで走っていてもスピード感は殆ど感じません。

バンバリーを過ぎると、1号線とは分かれて10号線に入るのだが、ここも制限時速はやはり110 km/H、どうやらその後のドライブから推察しても、全ての一般道は、町の中を通過する時以外は110 km/Hとなっている様です。

バンバリーを過ぎ、30~40 kmも行くと、両側の景色は緑が多くなり、至る所ブドウ畑で、道の両側はワイナリーの看板が次々と現れてきます。

<マーガレット・リバー>

マーガレット・リバーはスワンリバーと並ぶ西オーストラリアの2大ワイン産地であり、50軒ほどのワイン農家があるとされているが、いよいよ目的地に近いことが、感じられてくる。

マーガレット・リバーには3時頃に到着、未だ時間も早いので、先ずは町のインフォメーションセンターに行ったら、懇切丁寧に付近の名所などを教えてくれました。

町と云っても本当に小さな町で、10号線沿いの両側50~60 m位の間に土産店、スーパー、飲食店、ガソリンスタンドがあり、そこだけは観光客と思われる人達で賑わっていました。

未だ陽も高かったので、教えて貰った名所の内、1857年に建てられたという古いオーストラリア人の住居とグレースタウンというインド洋に面した風光明媚な所を訪ねることにしました。

ここまで行く細い道の端で突然野生のエミューに出会ったのには驚きました。背の丈が150 cm程もあるような大きな鳥です。直ぐに車を止め、カメラを持って近づいても5,6歩逃げただけでジッとしていたので、急いでカメラに収めましたが、その後暫らくして、何事も無かったかの様にゆっくりと林の中に消えて行きました。

こんな大きな鳥が野生でいるなんて流石オーストラリアだなあ！ と一人感心することしかりでした。



道端にいた野生のエミュー
この後林の中に消えていった

次の日、支部長お薦めのジュエルケーブ(鍾乳洞)を訪れました。

この鍾乳洞の特徴は鍾乳石を折ると、中が水晶の様に透明になっており、光を通すと、寶石の様に綺麗に輝き一見の価値はありました。

昼過ぎ、鍾乳洞を後にし、次の目的地アルバニーへ向いました。

アルバニーへの道は、これまでの道とは景色が一変して、道の両側には太くてスラットした高い木が並木のように続いており、森林浴をしている様な気持ちの良いドライブを楽しむことが出来ました。

この道沿いにはオーストラリアでしか見られないであろうカンガルーの絵が書かれた標識が多く見られ、その証のように、数匹のカンガルーが交通事故の犠牲になっていました。

<アルバニー>

アルバニーには、5時過ぎ頃に着いたのですが、この日オーストラリアに来て7日目にして始めて少しの間、霧雨でしたが雨に会いました。アルバニーは西オーストラリアの最南端にあり、かつて捕鯨で栄えた港町で、1826年に初めて西オーストラリアに白人が入植した町として知られています。

ホテルに荷物を置いた後、散歩がてらに町に出てみましたが、風が強いのと、時折霧雨が降っている為寒く、真夏のオーストラリアでもこんなに寒いことがあるのだと、思わず、北海道を出る時に着ていたジャンパーを羽織ってしまいました。

アルバニーの街の中は、人通りは殆ど無く、静かな感じの街でした。天気も南極大陸からの低気圧の影響で、気温が低く、風の強い日が多いようです。翌朝も空はドンヨリと曇っていましたが、前日にホテルの女主人から聞いていた名所めぐりをしました。

何と言ってもここでの最大の目玉は、南氷洋に面した海岸の巨石で出来ている、ナチュラルブリッジと ザ・ギャップなので先ずはそこを見物、流石迫力がありました。

その他、SALMON HOLES やWHALE WORLDなど幾つかの名所を見て、昼過ぎに30号線、アルバニーハイウェイで一路パースへ向いました。

速度はやはり110 km/H、パースまでの途中大きな町も無く、道の両側は何処まで行っても果てしなく広大な牧場が広がっています。

途中時々、短い区間ではあるが時速60 km/Hのところがあるが、そのスピードで走ると、

まるで5 km/Hか10 km/Hで走っているような錯覚にとらわれます。

不思議に思ったのは、オーストラリアと言えば羊の国と思っていたのに、415 kmのパースまでの道のり中で羊の姿は殆ど見られなかった事です。

多分、この広大な大地のあちこちに散らばっているのかも知れません。

ピナクルズ日帰り旅行(ドライブ)

往復の総走行距離570 kmの日帰り旅行でした。

7時半にパースのホテルを出発し、先ずはハイウェイで20 km程北上し、その終点からジョーングラップの町の中を通り、1号線に出て更に北上する計画を立てました。

ハイウェイ終点までは順調に行ったのだが、その後1号線に出る間で道に迷ってしまった。地図と、実際の道が全く異なっており、あちこちで聞きながらやっと1号線には出られたものの、こちらの地図の信頼性はもう一つです。

これに関連して、道の名前も、例えばパースから北へ向う1号線は、1号線の他に、ブランドハイウェイともノーザンハイウェイとも呼ばれて地図によって3つの名称がある為、我々のような初めての訪問者にとっては分かり難い。

1号線に出られてからは、順調にピナクルズまでたどり着くことが出来ましたが、その間の景色がアルバニーからパースまでの間に両側に広がっていた広大な景色以上に雄大なもので、牧場とは別に、背の低い灌木が延々と広がりその先が霞み一体何処まで広がっているのだろうと思わせる広さでした。

この写真は110 km/Hで走る車の中から撮ったものですが、道は何処までも真直ぐで、ご覧の様に車は全く見当たらず、道路を数kmに渡って独占している感じです。

ナンバング国立公園の中にあるピナクルズは「荒野の墓標」とも呼ばれ、ご存知の方も多いかと思いますが、見渡す限りの砂漠の中に数10 cmから高いものでは4 mにもなる岩の塔が林立する奇妙な光景が見られます。



何処までも真直ぐに伸びる道
他の車は1台も見えない

ピナクルズの入り口に来ると、小さな四角い箱の中に入っている太ったおばさんが、テングラ - と言うので \$ 10 を支払い、車に乗ったまま中に入ります。

入ると直ぐに、砂漠の中に岩の塔がニョキニョキと立った奇妙な光景に出くわします。

車が通る通路の砂は踏み固められており、我々の2輪駆動の乗用車でも楽に走ることが出来、時速5 km/Hくらいでそろそろと車を進めながら、ここぞと思うところで車を止め、写真を撮る等しながらその近くを歩いて廻り、数箇所をこれを繰り返して、30 ~ 40分位で一回りすることが出来ます。

よく観光案内等ではピナクルズでは、4輪駆動車やバギー車に乗って楽しむことが出来ると宣伝されていますが地図にも道路標識にもその表示は無く、どうやらツアーに参加しないとその体験は出来ないのかも知れません。

《ゴルフ》

2週間の間に3箇所のゴルフ場で、3回ゴルフをしましたが、何処のゴルフ場もフラットでセルフプレー、後ろからせきたてられる様なことも無く我々年寄りにとっては体力的にも、気持ちの面でも快適なゴルフでした。スコアを除けばですが・・・。

ジョーングラップ リゾートC.C

5日目の夜に泊まったホテルが所有しているホテルに隣接した27ホールのゴルフ場で、この中のQUARRYと言う9ホールのコースで楽しみました。

フェアウェイ、グリーン共とても綺麗なのですが、ここの特徴はバンカーで、バンカーのグリーン方向に衝立のような岩の崖が立ちはだかっており、高いものでは20mもあって、ボールは真横にしか出すことは出来ません。

それにも増して印象深かったのは、ゴルフ場のあちらこちらにカンガルーがいたことで、オーストラリアのゴルフ場でプレーしているのだな！と実感させられました。

このプレーフィーは、電動二人乗りカート込みで、ハーフで\$55、1ラウンドで\$85ですが、これはホテル宿泊者の料金でビジターで来ると、\$170 ~ 180はする様です。



ゴルフ場にはカンガルーがおりオーストラリアでゴルフをしている実感が湧く

ロッキンハム G.C

このゴルフ場は、パース市街から50km南にあり、藤本支部長のお宅から車で10分位の所にあります。ゴルフをする前に、海拔2m、目の前にインド洋が180度広がる支部長のお宅を訪問させて戴きました。ゴルフは、支部長ご夫妻とお友達、4人の女性組と3人の男性組の2組でハーフラウンドを楽しくまわりました。

このゴルフ場は、沢山のカンガルーが群れているのですが、ボールがカンガルーのそばに行ってもカンガルーは逃げず、ジッとこちらのおそまつスイングを監視していました。プレーフィーはハーフで、\$11、それに手押しカートの借り賃が5ドル、合わせても日本円で1,600円、地元のゴルファーは殆どの方が自分のカートを持っているので、\$11だけですから、気軽に毎日でもゴルフを楽しめます。

コリアー パーク G.C

パース市街の中心から約15分位で行く事が出来るゴルフ場で、Lake、Island、Pinesと名前の付いた9ホールが3コースある27ホールのゴルフ場です。

この日も、支部長ご夫妻、お友達の方々と一緒にさせていただいたのですが、私達に配慮して頂いて、わざわざお宅から50kmのこのパース市街近くのゴルフ場を選んで頂きました。

ここは流石に市街に間近ということもあってカンガルーの姿を見ることは出来ませんでした。が、大都市の直ぐそばであるにも拘わらず、広々として美しく、トリッキーなホールなど無いとても素晴らしいコースでした。

おまけに、プレーフィーは1ラウンド\$16、カート借り賃\$5の\$21で市街からこんなに近くてこの値段は信じられないほどです。

《ホテル》

今回の旅行では、いろいろなホテルを体験しようと、最初の4日間のホテルだけは日本にいる時に予約し、その他のホテルは全て現地で探して、合計7箇所のホテルに宿泊しました。

ご参考までにそれらのホテルをご紹介します。(全てツインでの申し込み)

Arrons Hotel Perth

このホテルは、日本で予約した最初の4日間泊まったホテルですが、ほぼパースの街の中心近くにあり、パースの駅も近く、ショッピング等にも大変便利な場所にあります。

1泊の料金は8,600円で、部屋は然程大きくないが、部屋の中や、バスルームは大変きれいで場所の利便性などを考えると良いホテルでした。

Joondalup Resort

パースからハイウェイで20分ほど、距離にして20km北上した所にあるリゾートホテルで、ホテルの直ぐ横が27ホールのゴルフ場となっており、周囲の環境は素晴らしいものです。

一泊205ドルと言う料金に見合って、部屋にはダブルベッド2つが一つずつゆったりと配置されており、テレビ、冷蔵庫、ソファ、バス

ルームなどは満足出来るものでした。

Confort Inn Grange on Farrelly (Margaret River)

ここは、パースから直線距離で約250km程南下したところにあるマーガレット・リバーという小さな町の所謂Motelと言われる形のホテルで料金は朝食付き209ドル。

部屋にはクイーンサイズのダブルベッドとシングルベッドがあり、ゆったりとした広さで、部屋の調度品や綺麗さはまずまずでした。

ただ、ホテルの格からするとこの料金は高いのではないかと思われました。

Albany View Street Lodge BSB (Albany)

パースから直線距離で約400km南方にある、西オーストラリアの最南端であるアルバニーのホテルで、客室が4つの日本で言う民宿タイプであり、我々が到着するや否や、玄関からこのオーナーである老夫人がわざわざ車のところまで出てきて出迎えを受けました。

部屋はそれほど大きくないが、電子レンジも備えた炊事スペースを持った居間とベッドルームが仕切られており、部屋の壁にはこのオーナーである夫人の繊細なタッチの絵が幾つも掛けられています。ただその絵には、絵の題名と共に可也いい値段が付けられていました。

朝食は、その晩宿泊した人達と6人掛けの一つのテーブルを囲んで、3面ガラス張りの海が見える明るく、小さな食堂でとります。この日の朝は、イギリスから来たと言う老夫婦と、40歳台位のオーストラリア人一人の計5人が同じテーブルを囲んで朝食を採りました。

Miss Muad Swedish Hotel

このホテルは、のArrons Hotelの真ん前にあり、スウェーデン風の女性に人気があるホテルだそうで赤紫色に白い窓枠を持った2階建ての外観がとても可愛いホテルです。

ロビーは小さいが細かいところに気配りがされ、洒落た感じがします。ホテルは可也古い建物で、それを象徴するのがエレベーターで、このエレベーターは外側のドア及びエレベーター本体についている内側のドア共、手で“よいしょ！”と開け閉めしなければならない代物で



アルパニーのホテルで朝食
(窓の外には南氷洋が見える)

す。

上昇ボタンをおすとガタゴトと大きな揺れと音とともに上昇を初めますが、“コレ大丈夫かな？”と多少不安になります。

エレベーターの古さとは対照的に、部屋の中は白を基調にした清楚な感じで、クイーンサイズのダブルベッドとシングルベッドが無理なく配置されています。

又、ここのバスルームには大きなバスタブがあり、オーストラリアに来てこのホテルで始めてゆっくりと湯船に浸かることが出来ました。

料金は、朝食付きで、149ドルであり、ホテルに駐車場が無い為、提携している近くのホテルの駐車場に泊めると、一晚12ドルがプラスされます。

City Waters Lodge

最後の4日間はこのホテルに泊まったのですが、モーター風三階建てで、敷地内に駐車が可能であるということがレンタカーを借りている我々にとっては好都合でした。

例の芝生だけの大きな公園の前で、その先にはスワン川、川向こうには南パースが見える場所です。

ただ、完全にその景色が見えるのは一番端の部屋だけで他の部屋からは直接見ることは出来ません。部屋の中は、クイーンサイズのダブルベッドとシングルベッドがあるベッドルームと壁で仕切られた厨房があり、一寸したものなら料理出来るようになっています。

ホテル自体は古いようなのですが、最近リフォームをしたようで、壁や、バスルームのタイルは

清潔で綺麗でした。宿泊料は、一泊90ドルで食事なしですが、頼めば簡単な食事は作ってくれます。

《南の会会員とのふれあい》

今回のパース ショートステイに対しては、冒頭でも触れた通り、藤本支部長の事前の貴重なアドバイスや情報がステイをより楽しく有益なものにしてくれました。

現地では、1月29日から2月26日まで滞在予定とされていた会員の太田さんご夫妻ともお会いすることが出来、滞在中のアパートメントにもお邪魔させて頂いて、パースに来られてからの多岐に渡る体験談を聞かせて頂きました。

2月22日には、幸運にも支部長がたまたまパース市街の方まで来られる用事があると言うことで、藤本支部長ご夫妻、太田さんご夫妻、それに藤本さんのお友達お二人も加って8人で、パースの中華料理店で小パーティーが持てることになりました。

パースに5年以上もお住まいの支部長の、ここでしか体験出来なかった様々な話題で時間が経つのも忘れて、興味シンシンで盛り上がりました。

南の会と言う共通の仲間意識の為か、大変打解けた和気あいあいの雰囲気がとても心地よく、南の会に入会していて本当に良かったと実感したひと時でした。

しかし、同時に我々のようなショートステイの訪問者は、LSの方々に如何に迷惑をかけず、GIVE AND TAKE の良い関係をどのように適正に保って行かなければならかも充分考える必要性も感じました。

外に出ると、南半球でなくては見られない右側が欠けた三日月が綺麗にパースの夜空に浮かんでいました。

最後になりましたが、お世話になりました藤本支部長ご夫妻、太田ご夫妻には重ねて厚く御礼申し上げます。

喜びも悲しみも

前チェンマイ支部長 No.558 伊沢 豊

去る3月末で支部長を引退させてもらいました。

‘老兵は去るのみ’なんてどっかで聞いたことがおますけど、いやほんまにエエ言葉やと思っております。第一 いつまでも老醜をさらすもんやおまへん。

会員さんからは、「伊沢のいない支部なんてクリーブのないコーヒーみたいなもん・・・」なんてベンチャラ言うてくれはりますが、「その手はクワナのヤキハマグリ・・・」とばかり、かたくなに拒み続けてまいりました。

思えばあれから3年、ほんまに早いもんでおますなあ。

酒匂前理事長から支部長委嘱状を拝受したのは平成16年4月1日。

当時私は既に当地の別組織「CLL(チェンマイロングステイライフ)クラブ」なるものの役員をしていたのですが、南の会チェンマイ支部長職が空席状態のままであるのを見かね、よせばよいのに自らその役を買って出たのであります。

「2足のワラジは履くもんじゃない」・・・とはよく言ったもの、以後皮肉にも当地を訪れる会員さんの数は年々うなぎのぼり、予想外の事態にまったく泡を食ってしまいました。

委嘱状での任期は原則2年間ということでしたが引くに引けず、結局1年延長し通算3年間務めました。私のような者が恙(つつが)無くやれたのは；

本部からの口出し・横やり・締め付けというのは一切なく、自分流でやらせて頂けたこと
九割がた(?)良好な会員さん達の良き協力が得られたこと

私自身、人さまに接するのが苦にならない性格であること・・・などでっしゃるか。



3 / 10 引退サロン会にて

そんな私にも泣きどころがあります。それ
いったい なんやねん? とお思いでしょう。

この際思い切ってブツチャケルと、次のような会員さんにはホトホトまいりました；

支部のほうへ何ら連絡なしにやってきていきなり、「昨夜当地に着いたのでよろしく・・・」
逆に、支部にさんざん世話になったあと何の連絡もなしに帰国してしまう

(天災や事故の際、支部は領事館へ報告する必要があるのでに会員の消息が把握出来ない・・・)

ステイ中に住所や電話番号に変更が生じても支部へまったく連絡してこない

支部には一言もなしに退会・・・非常識かつ失礼やおまへんかいな

支部に観光ツアー・ホテルや住まい等々、度を越えた仲介まで要求・・・

支部をいったい なんと心得てるんやろ このアホポテチン!

ま、このくらいにしときまひよ。

みなさーん、長い間 ほんまに ありがとうございました。3年間 とても楽しかったです。

どっかで私を見かけたら、ひとこと 声かけとくんなはれやあ!

チェンマイ視察ツアー顛末記

関西支部 No.753 大西 清

関西支部は、昨年4月に支部長が急病で倒れ辞任されました。後任の支部長の選出を急いでいましたが、11月になって松本支部長が新しく選任されました。一部役員も辞任もありましたので、新役員5人を補充して支部長以下8名の執行部を立ち上げました。

新執行部の最初の企画として、ロングステイの候補地として人気の高い「チェンマイ視察ツアー」を実施することを決定しました。

ツアーの推進母体として、支部役員で構成する「チェンマイこの指とまれ」実行委員会をつくることになり、企画提案者の私が委員長を引き受けることになりました。委員のメンバーは次のとおりです。

委員長	No.753	大西 清
副委員長	No.816	有元 義昌
委員	No.811	山本 嘉雄
委員	No.395	松浦 節子
委員	No.754	松本 都志重

2月10日をコア日として参加者全員が同一行動をする。それ以外の日は、各自で自由に旅行計画をつくり、自己責任で参加するとする計画を決定しました。

この方式にもとづき参加者を募集したところ、実行委員以外で3組の夫婦（河南、笹尾、木村の各夫妻）と1名（奥田さん）の参加申し込みがありました。総勢5組の夫婦と個人4人で、計14名の参加となりました。

チェンマイの伊澤支部長からは、企画進行中にいろいろアドバイスやご尽力をいただきました。現地の旅行会社、KKトラベルのジョンさんにも連絡をしていただき、とりあえずアマリリンカムホテルを廉価で15部屋キープすることが出来ました。

松本支部長夫妻は、例年のごとく12月16

日から3月6日までチェンマイロングスイに出かけるので、現地から支援してくれることになりました。

参加者間でメールのやり取りをしていく過程で、皆で一緒に観光をして楽しもうということになり、コア日を1日増やして2月10日、11日とすることにしました。

全員の旅行計画が12月初めに出揃いました。早い者は、1月22日に出発しバンコク、チェンマイ、プーケット、ペナンを訪問して3月8日に帰国する豪華プラン（有元、山本）から、私達夫婦のように7日間のみとするものまでさまざまです。おおむね現役組は7～9日と短いプランでした。

私達夫婦は、2月7日～13日の日程のツアーを計画しました。最初の2泊は、旅行会社指定のチェンマイプラザホテル、残り3泊はアマリリンカムホテルにしました。

バンコクのスワンナプーム国際空港は、事前の噂どおり本当に巨大な空港で驚きました。JALで到着し、チェンマイ行きの国内線に乗り換えるのですが、行けども行けども到着しない、動く歩道を何回も何回も乗り継いでやっと目的場所につきました。途中ものすごい不安感に襲われましたが、事前情報があったのでとにかく歩き続けました。結局空港の端から端まで歩いたようです。

ちなみに、同空港は昨年9月28日にオープン、総面積56万3,000㎡は世界一の広さで、成田空港の約3倍だそうです。スワンナプームとは、「黄金の土地」の意味で、即位60年のプミポン国王陛下が命名されたとのこと。

チェンマイ空港に到着したのは、夜中の0時をまわっていました。入管、税関の手続きを済ませ到着カウンターに出ると、現地の旅行会社



の出迎えがあり、ホテルまで送ってくれました。

チェンマイプラザホテルの印象は正直言って良くありませんでした。外観は大きく立派でしたが、部屋に一步入ると異様なカビ臭がしました。家内は慌てて窓を開けに行きましたが、ホテル仕様でわずかしか開くことができず、十分に換気できませんでした。エアコンをいれてもカビ臭はとれず、一晩中軽い咳が止まりませんでした。2泊目は少しましになりましたが、カビ臭は完全にはとれませんでした。

翌日からの2日間は、市内の観光めぐりです。家内と二人で、旅行案内書や地図を頼りに、ピン川クルーズやナイトバザール、付近の寺院、スナークセンターなどへ行きました。また、ホテル近くのマッサージ屋で疲れた足を癒してもらったりしました。

9日の夕方、アマリリンカムホテルのロビーに後発の笹尾、木村夫妻を除く参加者10名が揃いました。皆さん元気で明るい笑顔に溢れていました。松本支部長夫妻の案内で近くのレストランで食事をし、久しぶりの再会を懐かしみ、さらに懇親を深めました。先行して1月29日からチェンマイ入りしていた有元、山本組は連日の散歩とゴルフ焼けで一段と黒く、遅くなっているように見えました。

10日、11日のコア日の計画は、有元副委員長が、KKトラベルに依頼して作成してくれていましたので、その日程に従って行動しました。

10日午前9時、ホテルロビーに前夜遅くに

到着した笹尾、木村夫妻も含めて全員が揃いました。予定どおり事故もなく全員が揃ったことで、ほっと安堵しました。

KKトラベルからガイドのサカダさんと2台のワゴン車が到着しました。ガイドのサカダさんは40歳位のタイ人男性で、日本にきた経験はなく、現地の学校で日本語を習得したとのことでした。少しなまりがありますが、十分に通用しました。非常に博識で何を聞いても明快に回答してくれ、親切で頼りになるガイドでした。

2台の車に、女性グループ、男性グループに分かれて乗り込み、このツアー最大の目的であるロングステイの情報収集に向けて出発しました。

午前中は、コンドミニアム3棟、計6部屋とタイ語学校の事務所を見て回り、さらに郊外の1戸建ての家も2軒案内してもらいました。家賃は物件により異なりますが、月額1万5,000パーツ(約5万)前後のものがほとんどでした。ホテル住まいよりは格安ですが、シャワーのみで浴槽のない物件も何ヶ所もあり、風呂好きの私には不向きな感じがしました。どのコンドミニアムもプールを併設しており豪華でリッチな印象を受けました。

午後は、病院と市場、タイシルクの工場などを見学しました。

案内されたチェンマイラム病院は、本当に素晴らしい病院です。戸外の暑く埃っぽいところから一步病院内に入ると、空調がよくきいており、冷やりとしてまことに心地よい気持ちになりました。各部屋には「受付」などと日本語の案内が出ており、院内で迷うことはないと思いました。日本人の先生も2人居るとのこと。入院用の個室を見せてもらいましたが、広い部屋でテレビ、冷蔵庫などの設備も整っており、ホテルより快適に暮らせそうです。この病院をみるかぎり、ロングステイ中に病気になっても心配は要らないと思いました。ガイドのサカダさんの話では、「現地の人が高すぎてほとんど利用しない、もっぱら金持ちの外国人向けの病院」とのことでした。

チェンマイ支部との懇親会は、午後6時30分から、ナイトバザール近くのホテルで行われました。チェンマイ支部の定例サロン会に我々が参加させてもらうという形式です。総勢60人位の参加があり非常に盛況でした。

伊澤支部長は、地元関西から大勢が来るからというので、わざわざ在日予定を繰り上げて前日にチェンマイに帰ってきたとのこと。誠に有り難く感謝いたしました。

伊澤支部長の開会挨拶のあと懇親会が始まりました。私が着いたテーブルにいた皆さんは、顔艶もよく、日焼けして逞しい感じの人ばかりでした。ロングステイを心から楽しんでいられることがよく分かりました。歓談の中でロングステイの貴重な情報を沢山いただきました。料理も酒もすばらしく、何よりもこのように大勢の方々と、遠い異国の地で交流し、酒を酌み交わし、懇親を深められるということに喜びを感じました。初対面ですのにすぐに親しくなり、飲むほどにあちこちで歓談に華が咲きました。

「南国暮らしの会」の組織のすばらしさを改めて認識したしだいです。

翌11日は観光デーです。サカダさんの案内で、エレファントキャンプ、ラン園、山上のドイステーブ寺院、王族の墓のあるワット・ソンドなどの観光を楽しみました。

夕食は、「カントークディナーショー」でした。「カントーク」というのは、タイ北部から

ラオスにかけて貴族達が客人をもてなすときに、料理を載せて出した「お膳」のことだそうです。

金びかの豪華な衣装を身につけた美女達の伝統舞踊をみながらの食事です。さながら昔日の王侯、貴族もかくあったものかとの思いに浸り、非常に贅沢な心地よい時間を過ごしました。

12日は、フリープランでしたが、メンバーのほとんどは車をチャーターして「魔のトライアングル」といわれるミャンマーとラオスの国境の町「メーサイ」へ向かいました。ミャンマーに出国してパスポートの滞在期間の延長を図る必要もあったとのこと。

私達夫婦は、帰国の便が早かったのでこの計画には参加しませんでした。動物園、ワローロット市場などで時間を過ごし、19時15分チェンマイ発の飛行機で一足早く帰国しました。

ロングステイ候補地としてのチェンマイの魅力については、紙面の都合もあり会報等でも情報が溢れていますので割愛させていただきます。

今回、新生関西支部の最初の企画である「チェンマイこの指とまれ」が、事故なく無事終了し、所期の目的を達成できましたことは、ひとえに関係役員、参加者の協力、チェンマイ支部の皆様のご支援、ご協力のお陰と心より感謝申し上げます。

関西支部は、松本支部長の強力なリーダーシップのもと、全役員が一致結束して支部の発展、強化に向けて、さらに邁進したいと決意しております。

宮寄理事長を始め理事、役員の皆様、全世界の会友の皆様、どうか関西支部の活動を暖かく見守っていただき、さらなるご指導ご援助を賜りますようお願いいたします。

関西支部 「チェンマイこの指とまれ」

実行委員会 大西 清



コタキナバル滞在情報 (2006年11月現在)

関東支部 No.1134 亀山 京子

コタキナバルへ行く航空会社と空港

成田からコタキナバル(KK)へはマレーシア航空(MH)直行便があります。コタキナバルへは週3回。クアラルンプール(KL)経由でKKに入る方法もあります(MH航空か、エアアジア)。

ほかに乗り継ぎ便で、アシアナ航空、大韓航空により韓国経由(inchon空港経由)コタキナバル行き、シンガポールからシルクエアで入る方法もあります。今、韓国でもマレーシア人気が高く、コタキナバル線は特に混んでます。ゴルフツアーの団体客ですね。

成田へ直行便と韓国経由の帰りの便が、きつい真夜中の出発になるのが難点です。ホテルチェックアウト後、いかに夜中の出発まで、うまく時間をすごすか大きな課題でした。また、日付変更があるので、日にちを間違えないように空港へいきましょう。出発は翌日の0:30amころでして、空港に行くのは前日の夜中の10:30pmころです。ホテルをレートチェックアウト6pmでも、5時間余あまるのですが、コタキナバル空港は、古い小さな空港で空港内まったく何もありませんといっていいほど。けっして早めに行くべき空港ではありません。時間をつぶすどころか、出発1時間前までエアコンがきいている建物の中にさえ入れてもらえません。

暑いところで、座るベンチもなく立って待たされ、やぶ蚊にさされました。ただしチェックイン荷物だけは2時間以上前からオープンエアの場所で受け付けます。あまり早く預けると、「荷物荒らし」に会うので、気をつけたほうがよいという経験者の話もあります。マレーシア航空のケースです。私は荷物を極力少なくしていたので、機内持ち込み荷物のみで、チェックイン荷物はありませんでした。

ゴルフバッグは、マレーシア航空の場合、ほ

かの荷物と別に、1人1個無料になるそうなので、現地駐在の日本人はゴルフバッグに日本から米や食品をいれて運ぶそうです。

私は時間をつぶすのに町で買い物し、ネットカフェに寄り、広いステラハーバーの敷地を散歩して、エステし、夜の食事をし、さらに、ホテルラウンジで音楽ライブがあったので2時間ほどつぶしホテル従業員と世間話しても、まだ時間があまり気味でした。ステラハーバーは夜9時までのナイトゴルフができるので、ゴルフ好きの人には時間つぶしに、おすすめです。ビジターOK。荷物はホテルで無料で出発まで預けることができます。クラブハウスでは汗をシャワーで流し、付設レストランで夕食もとれます。またはホテルのバーで飲み、おしゃべりして時間つぶすのもいいかもしれません。ホテルで空港までのタクシー呼んでくれます。空港まで15分くらい、20RM。

今回は、マレーシア航空を利用しましたが、サービス、食事はまあまあです。日本では国内線は飲み物しか出ませんがMHは国内線でも食事ができます。マレーシア航空は会員になってもデイスカウントチケットがマイレッジポイントにならないのが難点です。ノーマル運賃でもエコノミーはあまりポイント積算にならないようです。もしJALのマイレッジ会員であれば、多少、割高ですが、JAL便を利用するほうが積算されます。ノースウエストNWのWorld Parksに入会されるとマレーシア航空のマイルもデイスカウントチケット、エコノミーでも積算されます。World Parks会員になることをお勧めします。NW便を利用しなくても、電話で会員入会申し込みます。

マレーシアのお金

マレーシアのリンギット(RM)をどうして

も日本国内で入手したければ成田空港（第2）の京葉銀行があついています。でもレートは恐ろしく悪いです。コタキナバル空港でMAY Bankの両替所があるのでタクシー代くらい両替するといいいとおもいます。タクシー代、市内へ20RM。空港を出たところでタクシークーポンを売っていますが、キャッシュしか受け付けなかった気がします。

市内にもMAY Bankの両替所があります。2006年11月現在、1RMが31円~33円でした。当然、日本円で両替できます。USドルは持っていく必要なし。持ち合わせの豪ドルも両替できました。普通の両替所はMAY Bankより安い所と高い所があります。ホテルはレート悪く論外です。ハイヤットホテルそばのWISMA MERDEKAショッピングセンターの1階に、いつも列なしている両替所はMAY Bankよりワズカですが、交換率よいです。

ちなみに1995年マレーシアへいったときは1RMが42円でしたので、今は約10円もレートがお得でした。アジア通貨危機のときは20円台に落ち込んだ時もあったようですね。

日本で新生銀行やCITI BANKの口座をつくっておかれると、その銀行カードでPLUSマーク、STARマークのある現地銀行のATMでRMの現金が出せます。多少手数料が引かれますが多額の現金持ち歩くよりは安全です。

また、クレジットカードですが、マレーシアでもスキミング犯罪があるので、使用したのは大きなホテルや信用できる有名店のみでした。皆さんも気をつけましょう。

ただし、有名なステラハーバーホテルでカードを使おうとしたら、カードが機械照合できなくて、もうひとつのカードで支払いました。国際電話で日本サイドのクレジット会社に問い合わせしたら、私のカードに問題はなく、ホテル側の機械の不具合だろうということでした。日本ではありえないことが起きるものです。クレジットカードは2枚持っていたほうがいいです。ただしJCBは使えないところが多く、VISAが無難。

余談ですが、もしマレーシアにロングステイされて、現地銀行に口座を作りたくさん預金したなら、遺書Willを弁護士を通して作成しておくほうがよいです。なぜなら不幸にして口座名義人が死んだ場合、遺族が口座のお金引き出すのがたいへん面倒で時間がかかるそうです。日本にないシステムですが、共有名義口座というのがマレーシアや、英連邦諸国ほとんどにあります。共有名義口座（夫婦または親子の）を作っておけばどちらか一人亡くなっても、生存している方がお金を引き出せます。しかし不幸にして2人が同時に事故死のケースもあります。弁護士に200RMくらいで作成してもらえそうです。マレーシアの弁護士は日本でいう司法書士や公証役場の公証人のような仕事もします。

マレーシアでも物価は地域で異なります。コタキナバルは、加工食品はKLから運ぶので高く、現地産の食品はぐっと安いです。日本のお米はKLで入手できるのに、KKではありません。日本米に近いカリフォルニア米の「錦」しか売ってなかったです。

タクシーはメーターがなく外国人料金で、現地人の倍の値段を言います。市内中心1~2kmで10RMでした。市内でも中心をはずれると15RM、空港は20RMという具合です。それ以外の土地はかなり交渉しないとぼられます。KKの労働者は1000RM（32000円）位が1ヶ月の平均給与みたいです。店員などは500~600RMくらいです。これをもとに現地の物価を考えてください。普通の地元人はタクシーは高いので乗れません。市内のタクシーの数は多く余ってるのですが、外国人に高い料金を吹っかけて生活が成り立っている感じです。また、すべてが日本の3分の1の安さではありません。製品はKLのように豊富な種類ありません。正直、洗練さにかけます。

フィリピーノマーケットは、高い値段を言うので交渉して、値下げさせます。最初から、客に「いくらで買いたいのか」と聞いてくるから、笑えます。前もって町のショッピングセンターで、真珠とか土産物の地元人平均価格を調べて

おくと相場がわかります。

マックドナルド、KFC、スタバーは日本と値段は変わりません。ということは、こういう店に入っている地元人は、お金持の人たちなんではないか？

PIZA - HUTは日本より安い値段でした。現地の人の昼代は3.5RM~6RMくらいです。(ショッピングセンターフードコートや庶民的食堂)

チップの習慣はないのですが、ショッピングセンターのトイレは小銭をはらって利用しなくてはなりません。トイレ番がいます。20~30Mセント(1RMの下の単位)。トイレトペーパーはありません。水のホースだけです。ティシューペーパーは持ち歩きましょう。

「持って行ってよかった!!」もの

小型軽量懐中電灯・・・ペナンもコタキナバルも豪雨と大落雷は、避けては通れぬ南国の天気です。案の定、サービスアパートで落雷で停電。枕元に常においていたので、とても役立ちました。

一流ホテルのステラハーバーでも、突然停電になりました。まさか一流ホテルで、そんなことが起きるとは予想せず、懐中電灯を荷物の奥深くへしまい、あせりました。日本のホテルのように、室内に懐中電灯見あたらなかったし・・・。

驚いたのは、宝石屋であちらのおばちゃんがバッグからおもむろに懐中電灯をとりだし、宝石に照らして、真剣に吟味していました。そういう使い方もあるんですねえ。ぜひ、真珠や宝石買うとき、懐中電灯で照らしてみてください。

虫よけスプレー(ガスタイプでないもの。飛行機にガスタイプ持ち込めない)・・・ Dengue 熱やマラリアの伝染の恐れありという外務省の警告を読んだので、マツモトキヨシでゲット。やぶ蚊対策に役立ちました。KKは郊外ジャングル多いし、ツアーに行く時は必ず露出した足や腕にスプレーしました。街中でも、やぶ蚊がいます。なぜか、どの建物の窓にも「網戸」がないのです。現地の人がいわく15階にも蚊がく

るそうです。KK長期在住の方で、Dengue 熱にかかった人がいるので、気を付けるに越したことはないです。KKからの離島ツアーにも用心にスプレー持参をお勧めします。

折りたたみ傘・・・日差し強いので、現地の女性は雨天晴天兼用の傘をさしています。帽子では日よけにならない。傘は勿論、現地でも安く買えますが、頻りにスコールに会いましたので、常に傘を持ち歩いて便利しました。

携帯電話・・・ショッピングセンターや空港内には公衆電話がありますが、街中では数少ないし、壊れていることがある。KLの公衆電話は日本と同様にお金をいれてダイヤルする方式です。日本の携帯を成田空港でローミングしていくのもよいでしょうが、値段が高い。頻りに海外に行かれるのなら、韓国(CDMA方式を採用)以外の外国で、携帯電話機を一つ購入しておくといいです。チップ(SIM)さえ取り替えればプリペイド式で、東南アジア、中国などGSM方式を採用するどの国でも使えます。私は中国で入手した携帯電話機に、マレーシアで購入したチップをいれかえ、更にプリペイドカードを購入して使っていました。国際電話をかけても安いです。街中に、どこでも携帯電話屋があってチップもカードも買えます。挿入は店の人がやってくれます。

梅干と正露丸・・・中国で下痢をしたつらい経験から、用心にこしたことはないと思参しました。暑いマレーシアどこでも、水と食事には気をつけ、外出に出かける前に必ず梅干を食べからでかけたので、今回はアイスカチャンに挑戦しても下痢もせず正露丸も使用せず。

長袖のブラウス、または長袖のうすいジャケット1~2枚・・・冷房がきついので。また日差しが強いので日よけにも必要。イスラム教徒の女性は布を頭からすっぽりかぶり、長袖長ズボン、ロングスカートなので、普通よりクーラー利かせないとならないのでしょうか？クーラー

利きすぎ。

室内用スリッパ・・・5星のステラハーバーのホテルにはあったが、KLの4星ホテルもKKの4星ホテルであるプロムナードホテルもなかった。中国、韓国、日本のホテルはスリッパがあるのが常識だが、マレーシアはちがう。

マレーシアタイプのコンセントプラグ・・・日本で購入して行って便利しました(ヤマダデンキで350円くらい)。マレーシアのコンセントプラグはイギリス型と同じです。日本のパソコンのACアダプターは電圧変化には対応していますが、プラグ型がちがうのでコンセントにさしこめません。マレーシアタイプのプラグを持っていけば、携帯電話の充電にも重宝するはずです。

「ああ、持っていけばよかった」もの

自分のノートパソコン・・・持っていかに不便しました。ネットカフェを利用。KKには、ネットカフェはたくさんありますが、形式がひどく古い。U3、USBフラッシュドライブやSKYPEできるか疑問です。スピードもひどく遅い。U3は持っていっても、KKの町のネットカフェでは、おそらく接続できないでしょう。1993～4年ころの箱型パソコンが主流です。日本語で見られますが、日本語フォントがないため、メールはローマ字で打たなければならなかったので、読み辛いし疲れます。

ステラハーバーホテルは、ネットコンセントが部屋にありました。KKの5星ホテルは殆ど部屋にPCコンセントがあるようです。

KKのネットカフェは、ワワサンプラザ寄りのAPI APIセンター1階に日本語で表示されるPCのある店(INTERNET ACCESS CENTRE)、センターポイント2階に2店舗、WISMA MERUDEKA SCは6階に。またガヤ通り近辺にもあります。「Japanese Language Version」と言わないと日本語で読めないPCがあるので注意。1時間3RMくらい。

「持っていかなければよかった」もの

フォーマルな洋服・・・5星ホテルのレストランでも皆さんとてもカジュアルな服装で食事してました。短パンにT-shirt、サンダル履きです。まいりました。

蚊取り線香・・・あちらで売ってました。

町のクリーニング屋がおもしろい

洋服の枚数でなく重さで、料金を払うシステムになっています。2KGが6RMというように非常に安く、2日くらいで出来上がる。ホテルよりぐっと安くお得です。急ぎなら、エクストラ支払って、速くあがります。ショッピングセンター内や商店のならびに、クリーニング屋がけっこうあります。

地元オススメのホテル、ロングステイ用サービスアパート

今回紹介するのは実際、宿泊したホテルや、訪問して部屋をみせてもらい料金を聞き出したホテル、ロングステイ用アパートなどです。(以下、電話番号は日本からかける場合でマレーシア国番号60を付加して表示しています。この他に国際電話識別番号010が必要です)

おすすめホテル(コタキナバル市中心)

*ステラハーバー5星ホテル

Tel : 60-88-318888 Fax : 60-88-317-777

町の中心から車で数分だが、無料シャトルバスが毎時9am-9pmでているので、非常に便利。ホテルの建物のグレードも高いが、とにかく敷地内が広く、レジャー設備、レストランが充実しており、サービスもよくスタッフ教育のレベルが非常に高い。オーナーがシンガポール人だからなのかすべて、基準が高い。

値段は1週間以内のパッケージ旅行で日本からいくのが一番安いですが、個人で滞在では直接申し込むと1泊299RM(ダブルorツイン)。2WKS以上だと210RMと普通価格460RMよりも格安になる。更に、長期滞在価格あるが交渉要。

敷地内のすばらしいレジャー施設が無料で使



ステラハーバーホテルのマリーナ
こちらから近くの島々へ観光クルーズが出る。料金もリーズナブル

え、市中心へ無料のシャトルバスがあるので、この値段はリーズナブル。日本人スタッフが常駐で、「英語苦手組」には魅力。

ゴルフは有料だが、ホテル客割引がある。居住者でなくてもゴルフクラブ会員になれる。頻繁にコタキナバルへくるゴルフ狂には年間会員になるほうが、お得かも。(ステラハーバーゴルフクラブ Tel : 60-88-252266)



ステラハーバーホテルのゴルフコース

このホテルのヨットハーバーから、離島ツアーが出ているので、宿泊客でなくてもツアー参加できます。他のホテル宿泊客も市内からホテル無料バスで(街中の四大ショッピングセンターにとまる)乗っていけます。タクシーは15RM。TVはNHKあり。

* PROMENADE HOTEL

町の中心で車がなくても買い物、外食に非常

に便利。値段も手ごろ。4星ホテル、ネットで直接予約すると、ツインルーム155RMプラスTaxです。普通は250RM以上です。日本語できるスタッフいませんが、対応は親切で、きちんとしています。ホテルのプール、ジム(インストラクター付)が無料利用できる。

外部の人も1日25RM、月額84RM~120RM、年間1000RMで利用可。

毎夜、レストランでライブあり。値段手ごろで味OKです。(マレーアジアン料理)

ホテル直営ベーカリーがあり、6時pm過ぎると美味しいパンとケーキが半額。ツアーデスクがあり、格安ツアーあり。但しガイドは中国語、英語のみ。

APIAPIセンターやセンターポイント・ショッピングセンター、ワワサンプラザ・ショッピングセンター、ウォーターフロント・レストラン街に歩いてすぐなので、外食やショッピングに最高に便利なロケーション。TVはNHK日本語あり。スリッパなし。

KKから離れたお勧めのホテル

リゾートホテルで町から非常にはなれているホテル。町には遠いけど、隔離された環境で1週間ゆったりすごすなら、お勧めのすてきな高級リゾートホテル:

ネクサスリゾート、 シャングリラ タンジュナル、 シャングリラ ラサリア

その他おすすめホテル(基準:KK内でロケーションがよく、清潔で安いホテル)。料金は季節で変動あり。実際にいって部屋もみせてもらい、WALK-IN PRICE を聞きました。2006年11月時点です。TVは日本語NHKなしが普通。英語CNNはあるところも。スタッフも英語のみ通じる。

* Tang Dynasty : スタッフは中国系で対応ドライですが、きれいでワワサンプラザ・ショッピングセンターに直接接続、コタキナバル近郊行きバスターミナルそば便利。値段はプロモーション価格でツイン110~150RMくらい。

ホームページあり。直接予約可。

Tel : 60-88-255566 Fax : 60-88-263989

URL : <http://www.hoteltangdynasty.com/>

***Deleeton Hotel** : ツイン99RM (tax込)。裏がセドコ・コンプレックス屋台レストラン街で、道路をはさんで目前がセンターポイントで、便利で安くきれいなホテルです。大通りの目前で騒音あり。TV : CNN英語のみ、バスタブなし。Tel : 60-88-252222

***Hotel Capital** : 清潔で安い。1階に地元で人気のイタリアンレストラン Little Italyがある。ツイン1泊140RM。WEEKLY・MONTHLYの別料金あるがMANAGERと交渉要。Tel : 60-88-231999

***Borneo Hotel** : こじんまりですが受付がとても感じよく、活気のあるホテルです。KKプラザの目前で場所便利。中華系の客多い。1階の小さな食堂では、美味しいのが満席。
スタンダード135RM (税込み、朝食付)、
スーペリア150RM。Weekly Rateあり。
URL : <http://www.dborneohotel.com>
Tel : 60-88-266999、Fax : 60-88-269131

***Beverlyホテル** : ASIA.CITYの横。大通りにかこまれ、道路渡るのが難儀。値段そこそこ、きれいでNHKのTV入る。185RM ~
Tel : 60-88-258998

***80RM前後でとまれる、そこそこきれいで町中心の便利なホテル**

RubyInn 79RM ~ 89RMツイン

Tel 60-88-213222

KinabaluDaya ツイン89RM 朝食付

長期滞在アパート : 基準は車がなくても、生活できるアパート

Marina Court Resort Condominium :
288RM ~ 308RM (3LDK、一泊)。月額レートあり。キッチン用具と家具・寝具付、

シーツ交換、掃除付、ジムプールあり。場所が最高に便利。目前海で、すぐ隣はプロムナードホテル、横にセンターポイント・ショッピングセンター、ウォーターフロント・レストラン街そば。Weekly、年契約もあり。

プロムナードホテル経営なので、サービスはきちんとしている。NHK入る。

Tel : 60-88-260003 Fax : 60-88-263433

Promenade Hotel Apartment 1泊92RM (ダブルBEDタイプ) ~ 268RM (3BEDタイプ)。キッチン設備あり、シーツ交換掃除付。シャワーのみバスタブなし。設備はたいへん古い。経営はプロムナードホテルなのできちんとしている。2週間くらい滞在で安く上げたい人向き。TVは衛星放送入りません。

ロケーションはAPI API センターなので特に便利。安い長期レートあり。

Tel : 60-88-260888 または 60-88-265555

Waikiki Condominium 1泊260RM (2BED ROOM)、350RM (3BED ROOM)。Monthly 3200RM (2BED)、4400RM (3BED)

海のそばで日本領事館公邸ちかく、ゴルフ場併設できれいで静かだが、町中心から車で数分はなれている。シャトルバス (不定期) がある。タクシーで15RMとられる。

日本でなら歩けない距離ではないが、現在、道路工事中箇所多く、町までの道に歩道がないので、歩くのは危険です。そばに小スーパーマーケットと夜間の屋台村あり。

Tel : 60-88-270717 Fax : 60-88-270176

LIKAS SQUARE BUSINESS CENTER

リカスクエアーは駐在の日本人がたくさん住んでいるが、市中心から遠く、建物がかかなり老朽化している。敷地内にスポーツ施設、買物SCあり、便利なので市中心に行かない人向き。日本語通じる環境がGOOD。市中心へはタクシーしか手段がない。

サービスアパート形式で1泊24RM、月2500RM ~。プール、ジム完備、同建物内にスーパーマーケット。

Tel : 60-88-252233 Fax : 60-88-251122

KKのグルメ

わずか2週間のコタキナバル滞在でしたが、現地でがんばっておられる3人の素敵な日本人に会いました。JITICのスタッフ(60-88-248523)、KKロングホリデイズの三好さん(019-5351371 or 60-88-267319)、そして「海遊亭」のオーナーシェフの中村さんです(60-88-240321)。

この3人にグルメ処(A級~B級)をおしえてもらいました。バラエティにとんでいます。

マレーシアの食べ物は、おいしいとはいえ、滞在が長くなるとさっぱりした日本食が恋しくなるもの。「なんっちゃって日本食レストラン」が海外では、昨今多い中、本物の日本人シェフのレストランを偶然見つけたときは、正直ほっとしました。

ASIA CITYの裏側にあり、不動産屋に物件を聴きに行く時、偶然を見つけました。こちらからお願いしたわけではないのですが、親切な中村シェフはご自分の車でKKの住宅や食市場など、親切にご案内してくださいました。

さて、短期ステイの方は外食ですませるのが安いです。屋台や庶民の店もそこそこ、きれいです。長期ステイの方で、日本米にこだわる方は、日本から持参がおすすめ。

調味料も持参おすすめ。コタキナバルは、クアラルンプールのように日本食品すべてを容易に入手できません。地元産の生鮮食品はたいへん安いですが、輸入食品、加工食品はKLから運んでくるので割高です。売られている米もカルフォルニア米「錦」が一番日本米に近いもので純粋な日本米は入手不可です。地元の日本食レストランはロングライスとジャポニカ米を混ぜて、出して居るところが多いです。

「トンビン」というコタキナバルの北の町外れ(キャピタルホテルに近い)にあるスーパーが日本食品を若干、販売していますが高い。

あとは車で、市中心から10分のところに、日本食品入手できる店があります。

RECIPES HOUSE(れしぴはうす、60-88-242181)、ここは「海遊亭」の中村シェフに

ご紹介いただいた店で品揃え豊富です。

日本食以外なら市中心の4つの大きなショッピングセンター内のスーパーでそろいます。

野菜、海産物を買うなら、マリナコートから近い、海沿い巨大生鮮市場「セントラルマーケット」はおすすめです。地元の新鮮な海産物、「干物」とか新鮮な野菜、果物が入手可能。地元の豊富な種類の調味料と食材で料理したほうが、安く美味なものがつくれるでしょう。するめ、たこ、魚の一夜干物まで売っています。干物って日本のオリジナルではないのがわかりました。「海遊亭」の中村氏に相談すると、地元人御用達の極秘「生鮮マーケット」をおしえてくれます。

KKにはB級グルメは、たくさんあります(味GOOD、値段安、衛生度まずまず)。ハイヤットそばのムルデカ・ショッピングセンター内にフードコートがあり、地元のいろいろな食事を楽しめます。ただ、混んでいて、騒々しいので、落ちついて食べられません。4~8RMくらい。

わたくしは、セントラルポイントSC地下中央のベジタリアンの店が、味付けがさっぱりしていて愛用しました。野菜不足にならぬように。3.5~4.5RMと安い。マレー系やインド系は塩がきつく、辛すぎる場合が多いです。

中華系は油で揚げた物が多く、長く居るとさっぱり系がこいしくなります。

イタリアンも恋しくなり、LITTLE ITALY(キャピタルホテル1階)に3度いきました。イタリア人が開いた店で味はOKです。ランチタイム16~20RMでした。ジェセルトンホ



セントラルポイント ショッピングセンター

テルにある「ベライタリア」もイタリアンです。

日本食レストランは「川奈」と「錦」と「海遊亭」など4～5軒あります。中華系経営でお米は香米ロングライスを使っています。しょうが焼き定食を食べたが、「うーん、ちょっとちがうかな」って味。「川奈」はウォーターフロントにあり、味そこそこです。海遊亭は偶然、不動産屋に行く途中でみつけたレストランですが、上述したようにオーナーシェフは日本人でお米もおいしいし、日本料理は本物です。ランチタイム定食の値段20～25RM。とても気さくで親切なかたです。ぜひ、食べにいらしてください。



中村シェフの「海遊亭」
Asia City裏側、シャングリラホテル斜め向かい

ほかに、おすすめは「ボルネオ1945」というカフェ兼食堂です。英語しか通じませんが、歴史的写真(第2次大戦の写真)が展示してあるカフェです。オーナーChloe Teoさんは日本人に理解ある気さくな方です。炭火焼パンが地元で有名で、オールドスタイルコーヒーとピーフシチューが「売り」です。

Australian Placeそば No24 LorongDewan
Tel : 60-88-272945

なお、舌の肥えた「海遊亭」中村シェフが、推薦の現地料理は「バクテー」です。いつも混んでいる店「佑記茶室」です。ためしてください。場所は以下のHP内にあります。そのほかの私の体験したグルメは、ガイド本や南の会の

会報内容(No.327市東氏寄稿2006春季号)と重複するのであえてかきません。長期在住の下記の日本人の方のホームページが参考になると思います。ぜひご覧ください。こちらにコタキナバルの夕食お勧めがのっています。

<http://8.sandakan.org/kkmap.htm>

<http://samasama.chu.jp/shop&restaurant.htm>

つれづれ情報:

海鮮レストランがウォーターフロントとセドコ・コンプレクスにあります。注文するときは選んだ魚とかえびは、その都度、品物ごとにグラム単位いくらか、1匹がいくらかと値段を確認しながら、注文してください。そうでないと、ごまかされます。中華系のオーナー多いから、観光客をみて計算するごまかす傾向あり。

KKはペナンやKLよりはずっと安全です。人間が穏やかで車の運転もおだやかです。が、フィリピンがすぐそばなので不法入国のフィリピン人がおり、郵便局本局やハイヤット近辺に出没して観光客に話しかけ、犯罪にまきこむケースがあると聞いています。道路で親しそうに話しかけてくるひとは、無視しましょう。

「あなたのはいている靴すてきですね。どこで買ったのですか?」と英語で話しかけるケースが多いとか。日本人と言わない防衛手段も。また、ブランドもののバッグなど身につけないよう。ショルダーバッグは横でなく前にかけること。ガイドブックや地図などを道路やショッピングセンターでひろげて、見ていないように。



コタキナバルの海鮮レストラン
水槽の生きている魚貝類を選び好みの調理をする

「観光客です！！カモです！！」とお知らせしているようなものです。地図は出かける前に頭にいれるか、小さいメモにしてでかけましょう。やはりKKは日本ではないので、常に、充分警戒しましょう。

危険情報： コタキナバルの近隣のサピ島、マヌカン島でのシュノーケリング、水泳、ダイビングで、海の中に入るとチクっとすることがあります。サピ島でクラゲにさされ死者が出ました。どうかくれぐれも気を付けて下さい！！

サピ島でクラゲによる8歳の韓国人少女死亡事故（2006年11月）また、1月に韓国人、日本人の海での水難死亡事故相次いでいます。油断しないように。

コタキナバルの不動産

ペナンから比べると値段が高いと思いました。特に外国人用のコンド（コンドミニアム）はまだ少なく、現在建設中と言う感じです。ただし、車があれば、KK市の郊外に庶民の住宅の建設ラッシュでして、それはまだまだ安いです。日本より広い間取りです。ペットも一緒のロングステイヤーには、バンガローと呼ばれる一戸建がいいでしょう。現地在住の方に言わせると、やはり空き巣や泥棒対策を考えると、コンドミニアムがオススメということです。現地英字新聞で毎日のように不動産情報は入手できます。KKでは不動産屋が車で案内はしてくれません。電話でコンタクトつけてタクシーで現場に行くしかありません。

ロングステイ用に長期契約ですと、市中心からバス便10分くらいにある住宅街ではペナン程度の安い価格帯の2軒長屋住宅やコンドがあります。

以下、私の訪問した不動産屋です。購入の仕方は英連邦系（双方弁護士たてる）方式が主流です。すべて英語のみ対応です。

Marico Realty Tel : 60-88-236895

賃貸も売り物件もあついている。Maryさん担当 AsiaCityの建物内

LEISURE AVENUE WAIKIKICONDO

ワイキキコンドー専門、Tel : 60-88-270717

華美集団 WAH MIE GROUP

地元大手デベロッパー Tel : 60-88-252177

黄国集団 WONG KWOK GROUP

インターネット環境充実のコンドー販売中、値段手ごろ。ERNIE PANさんがほんの少し日本語できる。（携帯013-876-7239）

会社Tel : 60-88-266966

TOKOJAYA SDN BHD

マリナコートを販売管理している。そのほかにCORONADEコンドー販売物件をあつかう。

Tel : 60-88-239685、またはSOETYさん（女性）に直接電話、016-802-0077。価格帯は2BED～3BEDが12万RMから40万RMと幅が広い。

戸建てもおなじようです。一般の庶民は10万RM台でも高いと感じるといっていました。町から10～15分車で出た地域では月額1500RMで3BEDのきれいなコンドー借りられますが年単位の契約になります。

コタキナバル 海遊亭 中村シェフを囲む会

本文記事に記載したコタキナバルの和食料理店「海遊亭」のオーナーシェフ中村好伸さんが日本に所用で帰国された機会に、会員有志7名が参加してお話を聞く会を開きました。



（2月5日、川崎市にて。右手前から669黒岩、中村シェフ、1134亀山、60渡辺、左手前から315鈴木、240菊地、732馬場、492中野）

スリランカ マジックの旅

関東支部 No.1084 内倉 恒治

私は昨年11月の始めからタイのチェンマイを拠点に近隣諸国の観光とマジックボランティアをして廻り1月末に帰京しました。その時の1つであるスリランカでのマジックショーをご紹介します。

マジック仲間マジックボランティア

我々マジック仲間4人は1月3日チェンマイを出発し、スリランカでのチャリティーマジックショーと世界遺産めぐりを行い、その後、モリジブへ渡り、高級リゾート地での景観とマリンスポーツを楽しみました。

今回のマジックボランティアの主目的はスリランカ孤児院建設プロジェクトの応援としてチャリティーマジックショーを開催し、資金援助をすることでした。それに付随して地元友人の結婚式、小中学校を廻ってマジックを披露してきました。



子供達の歓迎

主催者は学芸大学の卒業生

このマジックチャリティー主催者のエシャン氏は日本の学芸大学を卒業した現地人です。彼は福祉の仕事に熱心で子供たちの夢と希望を育む施設を運営するNPO法人の責任者でした。町はずれにはSPUTNIK INTERNATIONAL SCHOOLの看板がかかった学

校で孤児たちを30人ほど預かり、教育をする場所で、一方、町からの子供たちには英語や日本語を教える場所でもありました。

宣伝はポスター、車で派手に

チャリティーマジックを行うクルネガラのは以前スリランカの首都でもあった古い小さな町でした。町のあちこちには我々のマジック演技姿の写真が宣伝ポスターとして掲げられ、宣伝カーが町を廻るほどの大きなイベントになっていました。



宣伝ポスター

我々は翌日の本番に向けて、ホテル会場の状況、設備の確認、音響、照明などの手はずを整え、リハーサルを兼ねて、打ち合わせを念入りに行いました。

始めて見るマジックに多くの拍手

翌日は17:30開場、18:00開演で演技が始まり、予定通り進行し、多くの拍手を戴きました。我々の演技中には飛び入りでプロマジシャンが登場したり、アンコールにも答えて観客からは大声援を受けました。終了間際には抽選会などもあり、



大いに盛り上がりを見せて、建設資金の収益金も予想以上に集まり、エシヤンタ氏からも喜びの報告を受けました。

達成感を味わい今後も続けたい

私は2度目のボランティアマジックショーですが、参加した4人のメンバーはこれほど多くの観客が施設援助に協力してくれた事に感激すると同時に、今までにないマジックを演じた楽しさと達成感を味わったイベントの旅でした。

南国暮らしの会の皆様マジックを習ってみませんか。

私はこれからも出来る限りマジックを通じて多くのボランティア活動を続けて行きたいと思っ

ておりますが、皆様と共にメンバーそれぞれの特技を披露できれば幸いです。是非、皆様とともに楽しみながらボランティア活動をしたいものです。



祝 “ ハワイ支部誕生 ”

夢のハワイ支部誕生

ハワイ支部長 No.699 大黒 均

アローハ

南の会の皆様、昨年12月の理事会でハワイ支部の設立が公認されました。これもひとえに今野力男理事(670番)、高田勝弘理事(712番)の御尽力によるものと深く感謝しております。

常夏の国ハワイ、リゾートはハワイで始まってハワイで終わると言われております。それは世界一過ごしやすい気候とアロハスピリットにあると確信しております。少しの勇氣ある決断と少しの経済的余裕があれば、大きな感動が待っています。そしてその感動が共感に変わるのであります。

運命のいたずらででしょうか、私がハワイ支部長になりました。微力ではありますが皆様と一緒に楽しい夢のあるハワイ支部を作り上げて行きたいと思っております。今後ともご支援とご協力よろしくお願い致します。

南の会の皆様(私も含めて)は世間ではシニアです。私自身はまだまだ青春真っ只中だと

信じてやみません。ハワイ支部誕生にあたり南の会の皆様にサムエル・ウルマンの詩を捧げます。

人は「信念」と共に若く
疑惑と共に老いる
人は「自信」と共に若く
恐怖と共に老いる
「希望」ある限り若く
失望と共に老い朽ちる

南の会の皆様、いくつになっても夢と希望を持ち続けようではありませんか。

A) ハワイ支部の現状

ハワイ支部長 大黒 均 (699番)
副支部長 皆本 茂夫様(959番)
顧問 高田 勝弘様(712番)
顧問 村林 修次様(1016番)

今年(2007年)に入ってからハワイを訪れた会員の皆様

朝永御夫妻、日高恒彦様(1117番)、
坂田清御夫妻(698番)、辻邦弘御夫妻、
中牟田登御夫妻(1106番)、
岩月邦弘・玲子御夫妻(853番)

皆本副支部長を中心にハワイ・ミーディアム & ウェルダン・ステイ（ロングステイに対抗して）の下見ツアーを現在企画中でございます。会員の皆様のたくさんのご参加を期待しております。

B) ハワイ暮らしの裏技（秘密兵器）

ハワイ州の運転免許証を取ればゴルフが観光客の半額（カマイナレート）で出来ます。

レンタカー、レストラン、ホテルも割引制度があります。2年前に私はハワイの運転免許証を取得しましたのでワイキキのアラワイゴルフ場でワンラウンド12ドル（1,300円くらい）で楽しんでいます。高いところでも50ドルくらいです。

英語の勉強も3ヶ月10ドルでコミュニティセンターでできます。高校が生涯教育の場所にご利用されています。

アローハ

ハワイ支部 No.959 皆本 茂夫

アローハ、やっと南の会にハワイ支部が出来ました。そこで副会長を拝命しました皆本茂夫です。

これからハワイの良さを知ってもらおうと私の知る限りの情報を送りたいと思いますのでよろしく願います。

ハワイ支部の大黒 均支部長は日本とハワイを行ったりきたりしておりますが、私は原則的にハワイ在住で年に数回日本に足を運んでいます。せっかくですので私のプロフィールです。

私は1942年日本生まれ、日本育ちですが子供のときからハワイ音楽に憧れ、ウクレレやギター、そしてスティールギターを弾いているうちにハワイに行きたい夢が膨らみ、大学をでて2年後に一人移民船に乗ってアメリカに移住してしまいました。

ロサンゼルスに2年住んだ後、憧れのハワイに移り、以来38年ハワイに住んでいます。

ハワイでの前半の人生は旅行業でした。JAL

パックハワイセンターを1970年にオープンしたり、免税店で働くうちに老後は友達を呼んでハワイで住みたいなと思うようになり、今はそのコミュニティを作っています。

日本から多くのお客様が来るのでみんなでポットラックBBQ（無料）を開いたり、ウクレレを教えたり（無料）、一緒にゴルフ（実費）に出かけたりしています。

ハワイは高い、という人が多いですが、それは東南アジアと比べたら比較になりませんが、住む所さえあれば生活費は月10万円くらいあれば出来るのです。

確かにワイキキは観光客相手ですので日本並に高いですが、ワイキキから少し外れたら何でも安いです。

昨日もカパフル通りにある DEE THAI というタイ料理のレストランに夕食に行きましたがお酒持込みで一人\$15で充分堪能しました。

私は引退した人たちは今まで貯めたお金を使って旅行するのですから、なるべくお金を使わないで楽しむハワイを紹介することにしています。市バスでも65歳を過ぎると4年間\$10という破格のパスがどなたでも手に入ります。

そしてその間に来たときだけ1ヶ月のステッカーを5ドルで買えば島中乗り放題です。

又ゴルフにしても市営のコース（6箇所あります）に行けばカート付きで\$50です。健康のために9ホールを歩いてすれば\$25です。

もっと秘密を言えば18ホール\$3.2（約400円）でできる方法があります。9ホールだと200円です。

これはお会いしたときにそっと教えましょう。テニスは24時間電気ついて無料のコートが一杯あります。そのほかフラダンスや英会話教室、囲碁、将棋、チェスのクラブもありどなたでも格安で楽しめます。

それと治安もまったく安心です。テロやクーデターの心配はありません。病院も完備しています。日本人の医師もあり、言葉も心配ありません。旅行保険をかけてくれば一切無料です（ただし持病はのぞきます）。

何よりも素晴らしいことは空気です。太平洋

から常に運ばれる無公害の空気のおいしさは滞在した人でなければわかりません。

私のところにも東南アジアに行っている人が来ますが皆さんハワイの空気はお金に換えられないといいます。

ぜひ一度ゆっくりとロングステイしてみてください。

希望があれば今年の秋にはロングステイの下見旅行を手配してみたいと思いますので興味のある方はどうぞハワイ支部にご連絡ください。連絡は

minaminohawaii@gmail.com 皆本 茂夫
または hitdikok@hotmail.com 大黒 均です。

Hawaii welcomes you.

「平澤 信 世界を旅する」 アフリカ紀行

モロッコ編（その三）

関東支部 No.40 平澤 信

（2007年新年号から続く、連載第3回）

エルラシデアへ（ジゴロ君の目的は？）

2月8日（土）。犠牲祭で土地の人達がそれぞれの故郷へ大移動するため、エルフード行きのバスに中々乗れず、何台もバスを見送った。待つこと数時間。小型とは言えスーツケースを持っているので、中に入っても多分、座席の確保はままならない。困りきっていると、ガム売りの少年が私に目配せするとスルスルと人をかき分けバスの中に入り、安々と席を確保してくれた。

私は、嬉しさのあまり、持っていた小銭をみんな彼に渡した。予想外に金額が多かったのか少年はバスの発車まで私の隣にいて、何かと手伝いをしてくれた。本当はこんな事を子供にやらせてはいけないと思うが、この時は、背に腹は替えられないほど切羽詰っていた。

草木1本生えていない真っ黒で地獄のような景色を見ながら、再び「人はこんな所にも住まなければならないのか？」と疑問が湧いた。

バスが着いたエルラシデアの街も、殆ど見るものがない通過地点の街だ。バスを降りると若いジゴロを思わせる美男がホテルを紹介すると言う。ガイドブックで今日のホテルは決めてあったが、一応ホテル名を聞いたなら、これから私が行くホテルと同じであったので、彼に荷物を引

かせ、私は手ぶらでホテルへ入った。このジゴロ君、美味しいレストランへ案内してくれたり、メール屋へ付合うなど、とに角お節介だったが、一体何が目的で私についてきたのか分からず仕舞であった。

このホテルも、スチーム暖房の設備はあるのだが、滞在中暖が入った事はない。電球も申し合わせたように40Wと暗く、電球に本をかざさないと読む事もできない。ここの人達の眼は、私達日本人より良いとしか思えない。

あまりの不便さに耐えかねて、街の雑貨屋で80Wの電球を買ってきて入れ替え、私流明るい夜を過ごした。ただし、そのホテルを出る時40Wに戻す事を忘れてはいけない。電気や水を豊富に使えるというのは、富める国の象徴なのだ。

ナナちゃん死す

余談だが、この日、日本の私の住むマンションの管理人さんから、悲しいメールが入った。飼い主のおばあさんに先立たれ不遇の野良猫となったナナちゃん（ただし男の子）が、重い重い口内炎が胃にまで達し、ついに死んだと言うのだ。

旅に出るとき、お別れに彼を抱き上げてみると5.5キロもあった、あの堂々たる猫が2キロもないくらいに痩せていた。帰るまでは持たないとは思いつつも、どこかで生きていて欲しいと言う願いはあった。

ナナ坊は、子猫や、メス猫には優しく忍耐強いのに、理不尽な事に対しては人間をも威嚇すると言う堂々たる猫だった。メールを見た時は人前も憚らず涙が流れた。

汚れて、糸のように細くなってしまった身体を丸めて、あの世へ旅立ったナナを思うと悲しみだけがいつまでも襲ってくる。父が死んだときも、友人・知人との永久の別れの時もこんなに泣きはしなかった。

翌日は街へでる気にもなれず、1人ホテルにこもって鬱々とナナちゃんとの思い出にふけり、喪に服した。寒くて、痛くて、お腹がすいて1人死んでしまったナナの事を思うと今も涙が流れる。だから、エルラシデアの街は、食事とメール屋さんの記憶くらいしか残っていない。

エルフードへ(サハラへの入口で足踏み)

2月10日(月)。エルフードの街も全体が灰色で砂っぽく、「殺伐」と言う呼び方が相応しい。一段とサハラに近くなった事が感じられる。樹木が無いという事は、朝晩の気温差が激しく、昼間ばかばか暖かかった部屋の中も、夜になると冷蔵庫の中のように冷え込む。部屋の中には、日本製のACも着いているのだが、この国の厳しい暑さに備えての冷房だけで暖房には使えなかった。因みに、ここのホテル代は130D(1,580円)シングルルーム。

ここでも、国を挙げての「犠牲祭(一家で一頭の羊を捌き食べる祭)」のため、何処もかしこも休みになる。今泊まっているホテルも、サハラ砂漠行きのバスも運休となる。

60室ほどあるホテルには、宿泊者が私だけになった。フロントおじさんのK氏に「明日からどうする?」と聞かれたが、「どうしたらいいの?」と私も尋ねるしかなかった。

誰もいないホテルに1人残される事の恐ろしさは初めての体験だ。私が頼りなく見えたのか、K氏は、「私の家に来るか?」と誘ってくれた。誰1人知り合いのいない所で、この人と?という不安もあったが、「家」と言うからには家族がいる筈だから、ここに1人よりは...。と自問

自答し、彼の家に一緒に行く事にした。それに私の「見たい見たい病」が又も頭をもたげた。彼の家はここから近いという。

大荷物をホテルにおいて、当面必要な物だけをナップザックに入れ彼の家に出かけた。40分歩いて「もう少し」と言う。途中、ヒッチハイクで、知り合いの車で15分、更に歩く事20分、またヒッチハイク10分。結局2時間近くかかった事になる。

辿り着いたところは、大きな集落なのだが、その全ての家が泥で出来ていて灰色の不思議な景観だった。

不思議な体験

彼の家も例外ではなく、泥で出来た2階建てだった。1階の30畳近い長方形の大きな部屋の中は、真っ白い漆喰が塗られ、飾り棚には絵や縫いぐるみ等も置かれている。大きな天窓からは昼間のように明るい陽も入っている(珍客の私は、この部屋に泊めていただいた)。この隣には、居候の母と娘の住まい。部屋というには余りにも粗末な、8畳ほどの場所にはこの親子の万年床が敷かれていた。その隣は、冷蔵庫さまの置かれた部屋。TVも冷蔵庫もある見かけよりは遥かに現代的な暮らし振りだった。

2階への階段や2階の部屋の一部が不自然な形なので聞いて見ると、半年ほど前、大雨が2回も降り、階段と部屋の一部が解けてしまったようだ。2階の1室には黒い羊が1頭飼われていた。盗まれないために2階で飼うのだと言う。他にK夫婦の寝室や、さばいた羊の頭を煮るためのカマドもある。ほんに不思議な生活で、ここまで来た甲斐があったというものだ。

K氏は、私を気遣って短い昼間の散歩にもついて来てくれた。砂漠化が進んだ散歩道のすぐ横には、人骨こそないものの、あらゆる動物の骨が転がっていて、人々もまた、常に死に直面している事が分かる。死に直面という意味から、絶対的に頼れる心のより所、つまり「宗教」が必要なのだと思った。ここでは、イスラム(アッラー)が、絶対的な存在なのだが、宗教を持つ

人々は心優しい
(一部そうでない
人達もいるが)。



K氏の奥さんは、
自分の美しい衣装
を貸してくれたり、
私がちゃんと食べ
ているか、寒くな
いかと、いつも気
遣ってくれていた。

K氏夫妻には子供がいなかったが、
食事どきになると、何処からともなく20代の
美しい顔立ちの若者達が3人もやって来ては食
事を共にする。他に、前述のメイド代わりの居
候母娘もいる。そして珍客の私も...

K氏1人の働きでこんなに大勢を食べさせる
事ができるのか？ 改めてこの国の不思議さを
思った。

しかし、冷蔵庫に鍵を掛けたうえ、その部屋
にも鍵が掛けられているのを見て、ここはやは
り厳しい食糧事情があると思った。勿論、その
鍵は主婦たる奥さんが片時も離さず持っている。

この日の昼間、広場で犠牲祭のご馳走である、
生きた羊の首を切落としさばく所を3頭も見て
しまい「きっとこの黒羊は食べられない」と思っ
たのだが、夜、焼き鳥風に甘辛く焼いたものや、
野菜と一緒に煮た料理をととても美味しく頂いた。
我ながら結構いい度胸していると思った。

翌日、2階の羊さんの部屋に当然羊さんの姿
はなく、彼(彼女?)の食べ残しの乾草と、ポー
ルに入った飲み水と、羊さんの糞が残っている
のを見た。自然の摂理とは言え、やるせない気
持だ。自然に涙が頬をつたう。

いろんな国を旅したが、この時の体験ほど不
思議な旅はまだ経験していない。

泊まった部屋の、天窓から見えた夜空の幻想
的の美しさは、黄泉(よみ)の国へ来てしまった
ような錯覚を覚えた。何事があるうとも、私は
もうここから1人では出られないのだが、怯え
る気持や不安感はなく眠りについた。

翌日、死の世界を思わせる一面灰色の、この
集落のバス停から、K氏ご夫妻と共に、泊まっ
ているホテルへ戻った。バスで約40分。不思
議な黄泉(よみ)の国からこの世に帰った安堵
感があった。

犠牲祭のため、相も変わらず、メルズーカの大
砂丘行きバスは休みで私は困り果てた。

K氏から提案があった。150 D(1,800円)
出してくれば車でメルズーカへ連れて行って
くれるという。普通は乗合バスで20 D(240
円)ほどのところなので、べらぼうに高いが、
敵は私の足元を見透かしている。

車を持つ男は、日本女性を妻にしているから
安心だという。いつもの事なので、あまり関心
を示さなかった。K氏は「疑いの目で見られて
は...」と運転手の自宅に私を連れて行って
くれた。こんなに手間隙掛けて私をサハラへ送っ
て、幾ら貰えるのかしら?と可笑しくなったが、た
だで、黄泉の国へ私を誘ってくれた方なので喜
んで私も騙された。お金の配分を協議している
彼の目は別人のようだった。

運転手の妻は、京都生まれの日本女性で、未
だ若く24歳。夫との間に2歳の女の子がいた。
ここの生活は「医療面を除いて、何一つ不自由
はない」と言っていたが、私には、かなり無理
をしているように聞こえた。食事を含む生活の
殆どが日本式で、風呂場に(ゆ)と書かれた暖
簾を見たとき、彼女の日本への断ち難い気持が
見えた気がした。

とに角、この殺伐たるエルフードを早く通り
抜きたい気持から、150 D(1,800円)投じて、
1時間30分4輪駆動車で走り続けた。

大砂丘への道の全てが砂漠と化していて、見
渡す限り人の姿も植物も、勿論、水一滴ありは
しない死の世界であった。

メルズーカの大砂丘で、雨が...

2月13日(木)。奇妙な体験をしながら、
やっと辿り着いたメルズーカ大砂丘。犠牲祭で
足が止められているせいか観光客はまばらで拍
子抜けする寂しさだ。砂漠の真ん中にあるホテ

ルオーベルジュ・エルグシエルのツインルーム125 D (1,520円)は、どこから水を調達するのか、プールもあり、熱々のお湯もふんだんに使えるまあまあのホテルだが、サハラでプールは、真夏の猛暑に備えてのこととは思うが、場違いな気がした。外国人のためとは言え、砂漠にプールは要らない！

チュニジアでも白い美しい砂丘を見たが、サハラ広しといえども、ここメルズーカの砂丘が一番豪快だと地元の人達は自慢する。黄土色がかった巨大な砂の山は、砂だけなのに何故か感動があり、見る人を圧倒する。

到着した日は、うす曇りで、暑くも寒くも無かったが、夜、あまりの静けさに無気味になり、窓を開けて星を眺めようとしたところ、何と砂漠に深々と雨が降っていた。雨が降らないから砂漠になってしまったのに！？「年に数回、時には数年に1回しか降らない雨に、観光客が遭うことは非常に珍しく、ラッキーなのだ」と、ホテルの売店の人は言うが、私は全然有難くはない。思い起こせば、子供の頃の遠足、修学旅行、海、山と至るところで雨に逢ういわゆる「雨女」であったが、サハラでも雨とはいささか気が滅入った。私がサハラに長期滞在したら、たちまち豊かな緑が戻るのでは、と大砂丘を見ていると考え方も神がかってきた。

翌朝、目の前の砂丘は水分を含んでしっとり、一段と美しさを増していた。

ホテルの庭に停まっていたキャンピングカーで来た3台の旅人達(イギリス2人、ドイツ2人、ブルガリア2人)6人と私は誘い合わせて朝陽を見るため大砂丘に徒歩で登った。ラクダ使いが日本語で「ラクダが楽だ！」と執拗に私だけつけ廻して来たが、「その手は桑名の焼ハマグリよ」チュニジアで、もう体験済みですよ。と上手く振り切った。

地球上のどこから見ても同じ太陽を見ているはずなのに、朝陽・夕陽の美しさは回りの風景によって感動が違う。ここサハラの真っ赤で巨大な太陽を見た時は美しいと言うより、火の玉



が襲ってくるようで恐ろしい気がした。

朝食後、3台のキャンピングカーを見せていただいた。どの車も宿泊に必要なキッチン、食事室、寝室、シャワー・トイレなど全てを備えていて、旅好きの私の好奇心をくすぐるものがあるが、1台の値段は安い物で800万円、高い物は2,000万円と聞いて、私には無理だと思った。ケチを付ければ、寝室の天井が狭く、閉所恐怖症気味の私にはこれも無理だ。どんなに安宿でも車のベッドよりはましだと思う。旅をしながらトイレの後始末も嫌だ。第一に2,000万円分も旅しようと思ったら上手に使えばヨボヨボになるまで使える金額だ。と車を買えない自己弁護をしてみた。

キャンピングカーの人達が、私の部屋を見たいと言うので喜んで案内した。この晩、私達は旧知の友のようにサハラ砂漠の不思議について、和気藹々と話した。同じサハラでも海に近い西の果ては、砂の平地がどこまでも続いているだけで、面白みが無いとイギリス人夫妻が言っていた。次から次へ面白い話が出るのだが、私だけ英語が未熟なため、みんなが話す内容の2割位しか分からず、残念な思いが残った。「英語圏でないブルガリア人が一緒だから私の語学力が目立たない」と思ったのが間違いで、彼らはドイツ人とほぼ互角に渡り合っていて、私は端っこに追いやられた。外国人と一緒にいる時は、常にシャシャリ出て喋っていないと置いてけ堀を食ってしまう。やっぱり私には疲れる気がする。

テイネリール（カスバと大峡谷へ）

2月15日（土）。砂漠の旅を終えて迎りついたテイネリールの街は、ベルベル人が住む人口5,000人の静かな街だ。未だ犠牲祭の余波が残っているため、観光客は少なく、お祭りっぽい雰囲気だけが残っている。この日、私が泊まったホテル・トドラにはオーストラリア人のR（女28歳）とイギリス人（男34歳）のカップルが一緒だった。ホテルは1泊150D（1,909円）でこの辺りでは決して安くない値段で、見た目も立派で私達は満足した。

しかし、夜、お風呂の湯がぬるく入ったら風邪を引きそうであったし、朝食のコーヒーもぬるかった。私は、コーヒーを特別に熱々にしてもらったが、前述のカップルはぬるいまま飲んで不満タラタラであった。「西洋人はぬるいのが好きと聞いていますが...」と言うと「誰がぬるい風呂や、コーヒーを好きなものか...」と陰険な顔で言い返された。

朝食後、私達3人はテイネリール最大の観光名所であるトドラ峡谷へ出かけた。「カスバ街道きってのスペクタクルな景勝地」とのうたい文句で、高さ数百メートルの切立った岩壁には草も木もない岩山が道の両側に続いている。ヨーロッパのロック・クライマー達が命綱をつけて、岩に張り付いている姿があちこちに見られた。岩山と岩山の間には、冷たい清流が流れていて息をのむ景観であった。同行のイギリス人男性が、さっと長ズボン脱ぎ捨てて、素手のまま命綱もなく、岩を数十メートルも登り始めた時は、彼の中の類人猿が目を覚ましたかと驚愕した。

私は、岩登りの妙味よりも、ここに至るまでの道のりで見えた沢山のカスバや、ベルベル人の住む小さな村々の景色が心に残る。（カスバとは、城壁で囲まれた要塞のことで、日本でイメージするカスバとは全く違う城砦のことであった。日本で「カスバの女」は、有名な曲らしいが、実際のカスバには女の影さえもなく、どちらかと言えば荒くれた男のイメージであった。どこで、こうまでイメージがすり変わってしまった

のだろうか？）

草木1本生えていない岩山を見ていると、10年後この渓谷も「トドラ砂丘（砂漠化）と化すに違いない」と、私達は深く頷きあった。

相変わらずバスは運休しているが、今度は同行者が3人いるので、60DでGタクシーをチャーターした。割勘で1人730円。ぼられているがこの際仕方がない。小さな街だったが、素晴らしい手工芸品も見られるうえ、日本語入力のメールも使える便利な街だった。

ワルザザードへ（カスバ街道ひた走る）

2月17日（月）。赤茶けた大地と大小様々なカスバを遠く近くに見ながらカスバ街道をワルザザードへとタクシーはひた走った。移動中、車から見えた沢山のアーモンドの花の美しかった事。日本の桜の花よりも少しピンク色が濃く、荒々しい大地で、とても儂げ（はかなげ）に見えた。遙か遠くにオートアトラスの雪景色も見えて旅情をそそられる。

モロッコを旅行中の友人とメールで連絡を取り合い、落合った所がここワルザザード。友人の指定するホテル・エッサダ（80D：973円）へ行って見ると、設備や部屋は特に悪くはないのだが、夕方と言うのに電気もつかないため薄暗く、節約のためとは言えお化け屋敷のようであった。

街は大きくはないが、日本からの海外青年協力隊の若者達も住み、近郊では映画「アラビアのロレンス」の撮影も行われたと言うだけに、食べ物屋・土産物屋も多く、決して嫌な街ではないのだが、ホテルがお化け屋敷風なので、心が弾まない。1日早くこのホテルに到着した友人は、夜かなり不気味な思いをしつたらしい。このホテルの屋上には、日本の有名ブランド製のソーラーが設備されているのだが、修理できる人がいないのか、部品がないのか故障のまま放置されている。かなりの日にちが経っているらしく、色あせてカラカラに縮んでしまっている。日本からの援助品であろうか？ 見てはいけない物を見てしまった思いだった。有り余る太陽

を利用すると言う発想は良かったのだが...

余談ながら、お客に酷い耐乏生活を強いるエッサダは、5年後、倒産していると思った。

翌日ホテルヴァレへ移った。1泊150D(1,824円)。この値段で、プール付き、オートアトラスも望める、結構なホテルだ。明るい電気と、ふんだんに使える温かいお湯は長旅を癒してくれる。泊まるホテルによってその街のイメージもある程度左右される。

どんなに映画撮影で有名な街でも、この街には住みたくないと思つた。だが「現地の女性と結婚して数十年住んでいる日本人男性がいる」と、ホテルの人達が教えてくれた。

翌朝、このMさんを訪問して生活の様子を見せていただいた。がらんとしたバラックのような大きな家の中は、かび臭く、家具・調度と呼べる物は殆どない。食べ物も究極の質素さであっ

た。Mさんは40代後半の戦後生まれ。豊かな日本に育ったはずなのに、なぜこんな乾いた大地に骨を埋める気になったのか？

でも、その理由を聞いてはいけない気がした。Mさんの言葉の端々に、「もう日本には帰れない諸般の事情」があるように思えたからだ。「この家に泊まる事もできる...。」とMさんに言われたが、先のホテル・エッサダよりも厳しい宿泊条件になりそうなので、申し出をしなかった。日本での足場(生活根拠)を失うと、誰でもこんな風になりかねない、とほろ苦い思いが残った。私から見た彼の生活は、打ちひしがれたと言うほどではないが、満ち足りているようにも、幸せそうにも見えなかった。ただ、淡々と家族と日々を生活していると言う風であった。

友人と過ごしたワルザザードの5日間に終わりを告げ、私は、次の訪問地マラケシュへ向かう。友人はテイネリールへ。(以下次号へ続く)

もっと知りたいシリーズ

タイの宗教

甲信越支部 No.465 橋本 慧

(新年号に続きシリーズ2回目です)

「宗教と世界観」

- * タイにスリカンカ大寺系の上座仏教(小乗仏教)が伝えられたのは12世紀から13世紀にかけてのことである。スコタイ王朝以来歴代のタイ王朝は仏教を事実上の国教として手厚い保護を加えてきた。現在タイ人の95%は仏教徒である。
- * アユタヤ王朝期、二度にわたってビルマに国を滅ぼされた際、祖国再建に取り組んだ指導者たちがまず意をもちいたのはサンガ組織の再建である。
- * 南部のイスラム教徒は4%ほどである。
- * 大衆の救済を重視する大乘仏教とは対照的に、上座仏教では修道僧の自力による解脱の達成に重点が置かれている。この教説によれば、世界は転変してやまない輪廻の中にあるとさ

れ、苦しみや怒り、病苦や死等の苦悩が不断に生じている。この苦悩の原因は人々が持っている快樂や所有に対する執着である。執着の有る限り、人は輪廻界のとりこであり、次々に生死転生を続けながら永久に苦悩を味わい続ける。この苦悩から脱却する道は「八正道」を行うこと、つまり「正しい見解」「正しい思索」「正しい言葉」「正しい行い」「正しい生活」「正しい努力」「正しい意識」「正しい瞑想」を行うことによって開かれるという。

- * このような実践を可能にするために、タイの僧は「サンガ」と呼ばれる組織体を国家的規模で構成している。得度の儀礼によってこの「サンガ」に僧として加入できるのは成人男子に限られる。「サンガ」の成員になった者は一切の世俗的な仕事から隔離されなければならない。

- * 解脱思考の仏教教義は、僧という宗教的エリートを対象として用意された説明原理であって、在家の仏教徒に対しては別な原理が行動の指針を与えている。輪廻界の生すべてを苦として否定するのではなく、幸運な一生と不運な一生の区別がある。人のこの世における地位や運不運は、その人の持つ業（カム）、つまり、その人が前世で行った行為の結果として決定されている。カムを決める主たる要因は、その人の積んだブンつまり善徳の多少によるとされる。つまり、前世でダンブン（タイ語で徳を積む）を多く行った者は、多くのブンを持ち、現世で幸せな生活を送ることができる。とされる。
- * ブンの対立概念はパーブ（悪い行い）といわれる。
- * 前世 現世 来世という因果の連鎖の説明は、現実にはさらに拡大されて、現世の生活の中で積んだブンとパーブの結果が現世の将来の運、不運を決定すると理解されている。タイ人在家仏教徒は日々の行動を、ブンまたはパーブの尺度で計りながら生活しているのである。ブンを得るための方法（タイ農民の意識調査から）
 - 1位 僧になること
 - 2位 寺院建立の費用を寄進すること
 - 3位 息子を僧として出家させること
 - 4位 タイ全土の仏跡を巡礼すること
 - 5位 寺院改修の費用を寄進すること
 - 6位 毎日の托鉢に応じること
 - 7位 ネーンになること（未成年の見習い僧）
 - 8位 仏教の日に寺に参り、八戒を守ること
 - 9位 常日頃五戒を守ること（不殺生、不ちゅう盗、不邪淫、不妄語、不飲酒）
 - 10位 カテイン祭の時、僧に金品を寄進すること
- * 「サンガ」に対して行われる物質的価値の寄進が最も大きなブンを生み出すと考えられている。
- * サンガ組織の経済的基盤は在家仏教徒のタンブンによってささえられている。サンガ組織内では厳しい戒律の遵守が徹底されており、組織体としての純粋性、神聖性を保ち続けている。
- * 伝統的なタイの法を集大成した「三印法典」の中では、王たるものの必要条件として「10種の王法」を具足し正法をもって統治すべきことが説かれている。10種の王法とは、布施、戒、喜捨、正直、柔和、苦行者、無念、慈悲、忍辱、非妨害であるという。このような資質をそなえた王が仏教の正法に依存して支配を行ったとき、支配権の正統性が確保されるということである。
- * 歴史的に見て、国王はサンガを手厚く保護する一方で、厳しい監視と統制を行ってきた。特に1902年の「サンガ統制法」の制定以来、サンガに加入する者の資格や寺院の設立などの制限、教理教科書の整備、サンガ内の位階制の整備と給付金の下賜などを通してサンガの中央集権的な組織のバックボーンとなっている。
- * タイの僧の数は成人男子の約2.5%にあたるが、その四分の一は短期の出家者である。タイのサンガの場合、得度と還俗が比較的自由に行える。タイ社会では出家経験のあるものは成熟した大人として認められる。そのため村落社会では、結婚の前に短期の出家をすることが規範になっている。
- * 東南アジア地域がインド文化と接触を始めたのは紀元前にさかのぼる。その結果、この地域には多くのインド的文化要素が受容され土着化されてきており、その中でもシヴァ神などを中心に展開するバラモン神話と儀礼の体系などが庶民生活の基底に色濃く残っている。
- * 「ソクラーン祭り」は元来はインド起源の春分行事である。
- * タイ人の精神生活の基層にはより伝統的な信仰体系であるアニミズムの要素が濃厚に見られる。ピー（精霊）とクワン（生霊）のグループに大別されるが、バラモン教や仏教を受け入れる以前から持ち続けてきた超自然的な存在を畏怖する原始的な宗教感情であろう。万物に神宿るという素朴な宗教感情は日本人の心象に通じるものがある。

参考文献

弘文堂発行 もっと知りたいタイ「第2版」

平成10年発行

編者： 綾部 恒雄（京都大学副学長）
石井 米雄（京都大学名誉教授）

弘文堂発行 もっと知りたいタイ「第2版」

編者： 綾部 恒雄（京都大学副学長）
石井 米雄（京都大学名誉教授）

明石書店 タイの歴史（タイ高校社会教科書）

中央大学製作文化研究所監修

岩波書店 現代アジアの肖像 ピブーン

村嶋 英治 著

上記4書から抜粋

友好団体紹介コーナー

財団法人ロングステイ財団

ホームページ <http://www.longstay.or.jp/>

E-mail: info@longstay.or.jp

チェンマイロングステイライフの会
（CLLクラブ）

ホームページ <http://c11.thai.jp.net/>

ワールドステイクラブ（WSC）

ホームページ：

<http://homepage3.nifty.com/worldstayclub/>

E-mail: worldstay@nifty.com

THE JAPAN CLUB OF KUALA LUMPUR KL

（クアラルンプール）日本人会

ホームページ <http://www.jckl.org.my/>

バンコク日本人会

バギオ日本人会

西豪州日本クラブ

支 部 便 り

チェンマイ支部

チェンマイ支部長 No.54 山口 洋二

1. 支部長交代について

4月1日をもちましてチェンマイ支部長を前任者伊沢より新支部長54番 山口に交代しました。前任者同様よろしくお願ひします。なお支部長のメール等連絡先は、下記のとおり変更いたしました。

支部長 携帯電話 083-860-4418

メールアドレス nanngokuchiangmai@yahoo.co.jp

2. 2007年のサロン会の実施予定について

(1) 時期：毎月第2土曜日（但し4月は休会）

(2) 時間：午後6時30分から

(3) 場所：ドゥワンタウンホテル2階（ナイトバザール近く）

(4) 会費：250バーツ（努めてお釣りのない様こ）

(5) その他

- ・ビールは飲んだ人だけで割勘（概ね100バーツ）
- ・チェンマイに詳しくない方は、質問事項を事前準備し積極的に、チェンマイ長期生活

の方々に質問して、情報を得て下さい

3. 支部活動について

(1) サロン会の実施

(2) 会員相互の情報交換

(3) 視察者等の疑問・質問に対するチェンマイ情報の伝達

(4) チェンマイ生活での困った折の相談

4. 支部として実施しないこと（個人的に行う場合は、この限りではありません）

(1) 視察者等に対する空港への出迎えから始まって、チェンマイ市内等現地案内を含むあらゆるガイド的事項及びその手配

(2) ゴルフを含むあらゆる遊び等の付き合い及びその手配

*備考（ゴルフ同好者の連絡先）田中 勉

携帯番号 087-061-7697

メールアドレス tom929golf@yahoo.co.jp

(3) ホテル・コンド等あらゆる宿泊場所の手配

(4) チェンマイ在住の方のお宅見学及びその手配

バギオ支部

バギオ支部長 No.227 齋木 一

雨季のバギオ

会員No.227 バギオ支部 齋木です。この「会報春季号」が会員の皆様のお手元に届く頃の4月はバギオは夏真っ盛りの頃です。1年で一番暑い時期を迎えています。バギオが避暑地として賑やかな学生達の夏休みの期間です。

このバギオの夏は、5月一杯続きます。学校が新学期を迎える6月になると、バギオは10月月初迄の長い雨季に入ります。

最近の傾向として、この雨季の期間にも会員のバギオ訪問が絶える事が無くなりましたので、今回はこれからのご計画の参考にと、雨季のバギオについてお知らせします。

天候

5月は乾季の終りで、高温の日が続き、南シナ海からの上昇気流の影響もあって、午後から夜間に掛けてのシャワーの回数が増える。午前中の天候が比較的安定しているので、ゴルフ、テニス等屋外スポーツには支障は無い。

6月は、フィリピン近海で発生する台風の影響をそろそろ受け始めるが、この時期の台風の発生数はまだ少ないので、好天の日も多い。シャワーの頻度が次第に多くなる。7月は6月とほぼ変わらない天候であるが、台風が発生頻度が段々と増え、その影響で台風の進路から外れていても、太平洋上で発生した台風に向っての南シナ海からの湿った空気によって曇り勝ちの天候の日が多くなる。

8月は、1年の中で一番天候が悪い時期で、特に8月の後半は台風が連続して発生し勢力を蓄える迄、フィリピン近海に停滞するので、雨の日が数日間続く事が多くなる。9月は、台風の発生する場所が次第にバギオのあるルソン島から遠ざかるので、台風の進路にさえ当たらなければ、晴天の日も多くなる。反面、台風が発達してから近づくと大雨の恐れもある。

10月は、台風の発生場所も更に東方海上に離れて行き、次第に天候は安定に向う。最近は、

バギオでも雨の日が少なくなって来ている。

11月は、昨年は何回も季節はずれの台風の影響を受けたが、通常は台風の季節も終わって天候が安定する乾季のシーズンを迎える。

交通事情

バギオとマニラを1日1便結んでいる国内航空路線を運航するアジアン・スピリット社は、6月から雨季の減便を行い、週7便から4便へ雨季の期間減便する。雨季の期間は天候が不安定な為に、フライトキャンセルにも注意が必要。

雨季の期間の主役になるバス便は、マニラから数社が運行している、最大手のヴィクトリーライナー社は1時間に3便程のシャトル運行で、料金も3月月初段階では一人片道390ペソ。時間は6時間半程度。

昨年より、マニラのクバオバスターミナルから1日2便のバギオへのノンストップ便の運行も開始し、マニラ～バギオを5時間台で繋いでいる。料金は多少高くなる。

台風の通過時には、マニラ～バギオ間の幹線道路も一時的に不通になる事もあるので、雨季の期間のバギオへの旅程はゆとりを持ったものにされる事をお薦めします。

ホテル

バギオのどのホテルも6月から10月中旬迄は閑散期になる為に値引きをする。料金表にその表示をするホテルと、客の要求に応じる形で値引きするホテルとがあるので、注意が必要。値引き幅は1～2割程度。

アパートメント・ホテル

乾季には敬遠されがちな1ヶ月以上の長期滞在も雨季では歓迎され、ホテル同様、1～2割の割引もある。

短期貸し別荘

雨季の期間の長期契約に応じるところも多い。値段も交渉次第で大幅な値引きをするところもある。

一戸建てやアパートの契約

雨季に入ると、解約物件も増え、新規契約件数が乾季に比べ減少するので、雨季入り直後が契約にはいいチャンスと教える在バギオの日本人もいる。

雨季の過ごし方

雨季と言っても日本の梅雨とは違い、8月を除くと熱帯地方らしく陽性で、ゴルフやテニス等屋外スポーツも午前中は殆ど支障はない。バギオから車で1時間程の南シナ海沿いのリゾートでも十分に楽しめる。

観光客や避暑客の去った高原での静かな生活は、落ち着いた毎日を楽しめると結構最近雨季の方を好む人も多い。また6月から始まる新学期は、ボランティア活動にも最適。

観光

雨季と言うよりは、通年、バギオより更に奥地の北部山岳地方のバナウエ（世界遺産に登録された棚田で有名）方面へのルートはバギオからでなく、マニラからの方が時間的にも、道路事情からお勧め。

バギオからは近くの南シナ海沿いにあるリゾートや、北ルソンのピガン、ラオッグ等への小旅行や、アシンやキャンプワンにある温泉、それに山麓に点在する古い教会めぐり等が楽しめる。

食べ物

バギオは人口30万人の生活都市なので、年中新鮮な食材に恵まれている。特にフィリピンのサラダボールと言われるだけあって、高原野菜を中心に、日本のスーパーに並ぶ野菜類は殆どが信じられないような安い値段で市場に常に並んでいる。

果物は、バナナ、メロン、スイカ等地元産のものに加え、りんご、ぶどう等輸入品も安い。

魚介類は、南シナ海から新鮮なものが毎日運ばれ店頭をかざる。特に近海マグロは、フィリピン人があまり好まない為に、キロ500円程度で刺身用が購入出来る。カツオ、あじ等日本でも馴染みの深い魚はとても安い。フィリピン

人が好むフナ科の大衆魚テラピアは、ナント1kg120円程度と極安。

肉類は牛肉こそ安くてまずいの典型ですが豚肉、鶏肉は日本より味も良く安い。どちらもキロ300円前後。牛肉も最近急増しているコーリャンパワーの効果で焼肉店が軒を並べそこそこの値段でまあまあの味を楽しめる様になった。

飲み物

酒豪には、フィリピンはとても魅力的な国。生産量でアサヒや麒麟と肩を並べる「サンミゲルビール」は300ml1本が40円程度。モールのレストランでも80円以下で飲める。ブランデーやジンやウイスキーは700ml1本150円程度からあり、300円も出せば、そこそこの味の銘柄が購入でき、多くのレストランが持ち込みOK。ノン・アルコール類もコーク等清涼飲料水は1本30円程度。コーヒーは街中の簡易食堂なら1杯20円でインスタントコーヒーが飲める。スターバックスは流石にバギオでも1杯300円近くする。

タクシー

バギオは、30万人の人口でも町の中心は小さく纏まっているので、坂道ながら歩いての移動も結構多いが、雨季にはタクシーが欠かせない。そのタクシーは、初乗り60円からで、街中だけであれば、250円もあればどこでも行ける。マニラと違い、チップは原則不要。黙っていても小銭までお釣りをくれる。7000円も出せば終日借り切りも可能。マニラなど遠距離は2万円程度。

バス

バギオ市内はバス便は無い。ジブニー（小型トラックを改造した庶民の足）が主役。料金は距離によって多少異なるが、一人20円程度から。南シナ海沿いのリゾートと結ぶエアコンバスも一人片道250円程度。

ビサの延長手続き

フィリピンは、ビサ無し滞在は21日以内で

すが、バギオには入管窓口があり、滞在延長は簡単に自分で申請が出来る。パスポートを持参するだけで、時間も30分程度。料金は初回延

長27日分は約5000円。

如何ですか、こんな雨季の、静かで安いバギオを一度体験してみませんか？

部 会 伝 言 板

総 務 部 会

担当理事 No.259 菊地 功

会報新年号以降の総務部門の主な活動

- 02/03 南国暮らしの会第4回理事会
- 03/11 南国暮らしの会第1回役員会
- 03/23 総務部会(事業方針・予算打合せ)
- 04/07 南国暮らしの会第5回理事会

A) 第5回理事会にて以下の細則改訂が承認されましたのでご案内します(細則第13条)。

細則第6条「会員」(6)家族会員を定款第21条との整合性をとるため以下の如く改訂する。

「会員の配偶者及び同居の子は家族会員として認め、サロン会や懇親会等に参加することが出来るものとする。」

細則第11条「諸会議」に以下を追加する。

「(4)総会参加資格：3月31日現在の正会員で、且つ3月31日までに次年度年会費を納入したものを有資格者とする。」

B) また新年号発行以降も、裁判に関連する弁護士との打合せを適宜継続しております。

裁判の実施経過に関しては、新年号同封資料にて昨年末までの経過を述べていますが、今年に入って、既に1回実施、更に4月に1回予定されており、4月末時点で計5回行われることとなります。

会 報 部 会

担当理事 No.240 菊地 範夫

1. 新年号から「各支部特集」「投稿写真コーナー」をスタートいたしました感想はいかがですか。

皆様のご協力で今回も多くのご投稿ご協力を頂きました。今後も各支部の皆様の積極的なご参加、ご協力を期待しております。

2. 次回の夏季号の発行は7月下旬を予定しております。

- ・原稿募集締め切りは6月20日
- ・夏季号担当はNo.465 橋本 慧氏です。皆様のご協力宜しくお願い致します。
- ・投稿原稿のメール宛先は下記の橋本氏宛にお願いします。

hashi176@ybb.ne.jp

3. 会報をカラーで見ませんか？

会報の電子ファイル(pdfファイル)を希望者へメールでお送りしています。写真をきれいなカラーで見ることが出来ます。また会報発行後すぐに読むことができ、海外在住の方は特に便利です。

pdfファイルは、ほとんどのパソコンに入っている文書閲覧用ソフトAdobe Readerで簡単に見ることが出来ます。

ご希望の方は1.氏名、2.会員番号、3.送付先e-mailアドレス、を明記して下記のアドレスまでお申し込み下さい。

No.60 渡辺 義郎

yosi.watanabe@nifty.com

お申し込みの方には、会報発行の都度継続してお送りします。

4. 会報編集のお手伝いできる人募集

会報部会では、会報の編集協力者を募っています。集まった原稿を簡易DTPソフトで編集する仕事です。関東周辺に限らず全国どこの方でもかまいません。ご希望の方は下記までご連絡下さい。

No.240 菊地 範夫

norio.kikuchi@hotmail.com

5. 会報発送作業協力の御礼

発送に関し下記の皆様のご協力を頂きました。御礼申し上げます。

前回新年号会報発送作業協力者（敬称略）

281 梶村 真一、434 大野 悦子、462 小林 孝、670 今野 力男、999 中山 和代、
会報部会員 4 名

海外会員宛持参協力者（敬称略）

558 伊沢 豊、563 松井 巳和子、
1106 中牟田 登、1163 山口 孝次

会報投稿要領

- ・原稿の形式は特に定めておりません。形式自由で、次のような方法でご投稿下さい。
手書き文書を下記へ郵送
〒140-0002 東京都品川区東品川3-22-20-1208 「南国暮らしの会」会報担当
メール本文に書いてメールを送信
テキストまたはワードで書いてファイルをメールに添付する。
- ・写真は下記のいずれかの方法でお送り下さい。
プリントした写真を郵送する。
デジカメで撮った写真をメールに添付
ワードに貼り付けた写真は品質上好ましくありません。この場合は同じ写真をメールに添付して別にお送り下さい。
- ・お願い：原稿には題名、著者の会員番号、氏名（フルネーム）を明記して下さい。

編集後記

会員の皆様には春季号へのたくさんの投稿をいただきまして心より御礼申し上げます。特に北海道支部の皆様には工藤支部長を中心にほとんどの会員の方に積極的に投稿をいただきましてご協力に感謝いたしております。

今回初めて会報の編集担当としてお手伝いしたのですが、不慣れなため途中でパソコンのトラブルがありメールアドレスの変更や、投稿に対して速やかに着信の確認、お礼の返信が出来なかったこと等、多くの方にご迷惑をお掛けしまして申し訳ありませんでした。パソコン操作の未熟さを反省しております。

しかし会報部会の先輩方の親切なご指導により何とか予定日に春季号を誕生させることが出来てホッとしながら満足感を味わわせてもらっております。

さらにこの編集作業を通して皆様との交信で新しい「人との出逢い」が沢山生まれたことも大変嬉しく思っております。

さて、次回の夏季号はNo.465 橋本 慧さんが編集担当しますが、特集は九州支部、北海道支部に続いて関西支部と甲信越支部合同企画を予定しておりますので引き続き会報作成に支部の皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。
(No.732 馬場 章介)

写真提供有り難うございます

表紙：本号のテーマは「桜」です。

左上から時計回りに

No.345 藤巻 雄二さん

「駒繋の桜」

No.732 馬場 章介さん

「ノースバンクーバーの桜」

「千鳥ヶ淵の桜」

No.258 松山 和弘 & No.777 小松 浩さん

「桜と馬」(本文参照)

中央はNo.417 木内 登希晴さんご提供

裏表紙：上から

1. 2007年3月役員会参加者

(前列左より) 487横井理事・586磯崎副理事長・1012木村(まゆみ)ペナン支部長・281村松理事・470細田理事・434大野理事・754松本関西支部長

(中列左より) 512金子監事・596中林理事・18木村(義光)顧問・625工藤北海道支部長・163宮崎理事長・712高田理事・851稲田九州支部長・670今野理事

(後列左より) 240菊地(範夫)理事・655嶋田顧問・465橋本理事・94高橋東海支部長・327市東理事(関東支部長)・717染谷理事・660平方理事・259菊地(功)副理事長・315鈴木監事・732馬場理事

2. 北海道支部サロン会

No.298 田中 悟さんご提供

「南国暮らしの会」からのお勧め

*** 自己責任 * 納得の上 * 自己決定**

南国で不動産等の買い物をするときは、すぐ買わず、情報を幅広く集めて、自分の目で確かめて、しばらく試してみて納得してから、自分の責任において自己決定する。

南国暮らしの会ホームページに最新の情報が 있습니다。

ご覧になって下さい。

<http://www.minaminokai.com/>

会員相互の情報交換には、南国ML（メーリングリスト）が便利です。

会員の方で新しく参加希望の方は下記へ参加申込を。

メールアドレス：home @ minaminokai.com

(メールには会員番号、氏名、ご自分のメールアドレスおよびウイルス防止のためご利用のウイルス防止ソフト名あるいはプロバイダのウイルスチェック契約の有無を明記して下さい)

[編集委員]

No.240	菊地 範夫	noriokikuchi@hotmail.com
No.465	橋本 慧	hashi176@ybb.ne.jp
No.281	村松 幸子	skajimura@mtf.biglobe.ne.jp
No. 60	渡辺 義郎	yosi.watanabe@nifty.com
No.732	馬場 章介	shosuke7@nifty.com

記事の無断転載・複製を禁じます。

発行者 特定非営利活動法人（NPO法人）

「南国暮らしの会」

©minaminokai

理事長 宮崎 哲郎

〒140-0002 東京都品川区東品川3-22-20-1208

TEL 03-3472-9916 FAX 03-3472-9954

<http://www.minaminokai.com/>



投稿写真コーナー



2007年3月 役員会



北海道支部サロン会 (No.298 田中 悟さん提供)